

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	基礎物理生物学	担 当 教 官 名	南 條 ・ 益 田
対象学生	1年生 夜間部	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	細胞小器官の構造と機能・細胞分裂・拡散の構造と機能・てこ・モーメント・運動法則		
授業の概要 及び到達目標	<p>理学療法の基礎となる解剖学・生理学を深く学ぶための基礎を学習する。解剖学、生理学を身体を使って説明できる。</p> <p>【実務者経験】南條 一般病院で、成人、高齢者、スポーツ選手を含む整形外科的疾患を持つ患者を対象に運動学・臨床運動学に基づいたリハビリテーションを行っていました。</p> <p>【実務者経験】益田 実務者経験: 大学では、15年に渡り理学部生物学科の非常勤講師として生物学の実習を担当してきた。自らも動物の生理学の研究に取り組んできた。</p>		
講義計画・内容	<p>第 1回 物理学：オリエンテーション</p> <p>第 2回 生物学：Introduction 生物の特徴 生体を構成する物質 細胞の発見と細胞説 細胞の大きさと形</p> <p>第 3回 物理学：物理学の単位</p> <p>第 4回 生物学：細胞膜の構造と特徴 細胞膜における物質輸送</p> <p>第 5回 物理学：てこ</p> <p>第 6回 生物学：細胞(核、リボソーム、粗面小胞体)の構造と働き</p> <p>第 7回 物理学：モーメント</p> <p>第 8回 生物学：細胞(滑面小胞体、ゴルジ体、リソソーム)の構造と働き</p> <p>第 9回 物理学：ニュートンの運動法則</p> <p>第10回 生物学：細胞(ミトコンドリア、中心体、液胞、葉緑体、細胞壁)の 構造と働き</p> <p>第11回 物理学：輪軸と滑車</p> <p>第12回 生物学：遺伝情報の伝達(核酸の基本構造、DNAの構造、RNAの種類と働き)</p> <p>第13回 物理学：力学について</p> <p>第14回 生物学：遺伝情報の伝達(RNAの構造、DNAからタンパク質</p>		
準備学習	<p>授業前、高校の生物学の教科書がある人はみなおしておくこと。授業後はノートをよくみなおして復習すること。</p> <p>準備したい人は以下の図書を参考にしてください: 絵でわかる細胞の世界 黒谷明美著 講談社サイエンティフィック</p>		
教科書・教材等	教科書は指定せず。必要な図や写真はプリントで配布するので、各自ファイルすること。		
授業の形式 教育機器の活用	講義 ・ グループワーク		
成績評価の方法	定期試験90% 出席点10%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	本講義は専門科目ではないが、専門科目の生理学、解剖学・運動学と関連が深く、生理学、解剖学・運動学の理解の助けになるので、しっかり勉強して下さい。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	解剖生理基礎演習	担当教官名	磯部由美
対象学生	1年生 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	骨 筋肉 神経 内臓 呼吸 循環		
授業の概要 及び到達目標	<p>理学療法の基礎となる解剖学・生理学を深く学ぶための基礎を学習する。解剖学、生理学を身体を使って説明できる。</p> <p>【実務者経験】 理学療法士として、リハビリセンター、一般病院、介護老人保健施設、訪問リハビリ、整形外科クリニックで働いたのち京都医健専門学校に入職しました。 京都医健では低学年の解剖学、生理学補習を長年にわたり担当してきました。</p>		
講義計画・内容	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 骨学 第3回 骨学 第4回 骨学 第5回 筋肉系 第6回 筋肉系 第7回 筋肉系 第8回 神経系 第9回 神経系 第10回 神経系 第11回 消化器系 第12回 消化器系 第13回 呼吸・循環系 第14回 呼吸・循環系 第15回 まとめ</p>		
準備学習	授業で習った事を日常で使う		
教科書・教材等	からだが見える 人体の構造と機能 (メディックメディア)		
授業の形式 教育機器の活用	講義 実技 各模型 視聴覚機器		
成績評価の方法	各単元の小テスト(80%)、出欠点(20%)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	解剖学、生理学は皆さんの体そのものです。解剖学、生理学が理解できれば人間の体の素晴らしさを実感し、難しい授業も少し楽になります。実践で学ぶ際は積極的に学んで下さい。簡単なキーワードは覚えていきましょう、今後ずっと使う言葉です。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	リハビリテーション概論	担当教官名	森田 卓麻
対象学生	第1学年 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	障害分類・リハビリテーション理念・廃用症候群		
授業の概要 及び到達目標	<p>リハビリテーションとは何か、基本的かつ正確な概念を学ぶ。リハビリテーションの歴史、理念を学び理解することができる。障害論では、障害のモデルを学び症例についてグループワークで分類する作業をする。またリハビリテーションに関する様々な関連法規、評価方法、治療手段について学び、実際の理学療法士の仕事がどのように行われているかイメージすることができるようになる。リハビリテーションの意味を理解した上で、対象者にできることを考えてもらいたい。</p> <p>[実務経験]一般病床、地域包括ケア病床、訪問リハ、通所リハにて約7年理学療法士として勤務。入院患者と訪問リハビリ利用者に対してリハビリ業務に従事。主に、地域に根差した医療に関わり、一人一人の社会的背景を踏まえつつ、地域全体でQOLを維持した生活ができるようリハビリを行い、地域の活性化に努めた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> ①オリエンテーション リハビリテーションとは ②リハビリテーションマインド、インフォームドコンセントとは ③廃用症候群 ④急性期・回復期・生活期リハビリテーション ⑤国際障害分類(ICIDH) ⑥国際生活機能分類(ICF) ⑦ICFの分類 グループワーク ⑧チーム医療とは ⑨地域リハビリテーションと地域包括ケアシステムとは ⑩理学療法評価とは 情報収集と機能障害の評価 ⑪理学療法評価とは 能力低下の評価 ⑫老化と介護予防 ⑬医療 社会福祉と法律 ⑭障害受容 グループワーク ⑮まとめ 		
準備学習	授業で進んだページの復習・ノートの見直しを行う。		
教科書・教材等	テキスト・配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験 90% 平常点 10%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	理学療法士となるうえで必要な知識や情報がたくさん触れられると思います。リハビリテーションの理念・概念の理解をしていただき、近年変わりつつある理学療法士の実際の仕事を聞くことで、これからの自分が目指す理学療法士のイメージを作ってください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基準)	専門基礎分野
授業科目名	運動学 I	担当教官名	南條 千人・森田 卓麻
対象学生	第1学年 夜間部	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	運動学, 運動力学, 生体力学(てこ・モーメントなど), 運動器(骨・筋・関節・靭帯など)		
授業の概要 及び到達目標	<p>【授業の概要】 運動学の基礎を学習することで、後期の運動学各論(各関節の運動)の理解ができるようにして下さい。運動学は理学療法士にとって必修の教科であるとともに、「運動」を用いて患者を治療する「運動療法」を実施するにあたっては、必ず理解をしておかなければならない学問となります。</p> <p>【到達目標】 ・運動の分類、運動器(骨・関節・筋など)の構造と機能が理解できることが目標です。 ・生体力学(てこ、モーメント、Newtonの運動法則、力学的エネルギーなど)が理解できることが目標です。</p> <p>【実務者経験】南條 一般病院で、成人、高齢者、スポーツ選手を含む整形外科的疾患を持つ患者を対象に運動学・臨床運動学に基づいたリハビリテーションを行っていました。</p> <p>【実務経験】森田 一般病床、地域包括ケア病床、訪問リハ、通所リハにて約7年理学療法士として勤務。入院患者と訪問リハビリ利用者に対してリハビリ業務に従事。主に、地域に根差した医療に関わり、一人一人の社会的背景を踏まえつつ、地域全体でQOLを維持した生活ができるようにリハビリを行い、地域の活性化に努めた。</p>		
講義計画・内容	<p>1回目:オリエンテーション／運動学とは 2回目:肩関節の構造と機能 3回目:肩関節の運動 4回目:肘関節の構造と機能 5回目:肘関節の運動 6回目:手関節・手指の構造と機能 7回目:手関節・手指の運動① 8回目:手関節・手指の運動② 9回目:股関節の構造と機能 10回目:股関節の運動 11回目:膝関節の構造と機能 12回目:膝関節の運動 13回目:足関節の構造と機能 14回目:足関節の運動 15回目:まとめ、試験解説</p> <p>16回目:顔面・頸部・体幹の構造と機能 17回目:顔面・頸部・体幹の運動① 18回目:顔面・頸部・体幹の運動② 19回目:姿勢について① 20回目:姿勢について② 21回目:姿勢について③ 22回目:歩行について① 23回目:歩行について② 24回目:歩行について③ 25回目:運動中の下肢の機能① 26回目:運動中の下肢の機能② 27回目:運動学習 28回目:姿勢・歩行の観察① 29回目:姿勢・歩行の観察② 30回目:まとめ、試験解説</p>		
準備学習	解剖学の内容と重なっている箇所(主要な筋の起始・停止・神経支配)は理解しておいて下さい。定期的に小テストを行います。定期試験につながる内容がありますので、小テスト前後は特に予習・復習を行うようにして下さい。		
教科書・教材等	基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版株式会社 作成資料		
授業の形式 教育機器の活用	主に講義形式、必要に応じて実技形式をとります。		
成績評価の方法	定期試験(90%)、平常点(10%)		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	国家試験にも出題される教科内容のため、用語の理解が出来るようにして下さい。 自分でオリジナルのノートを作成して、理解を深めて下さい。		

2024年度 京都医健専門学校 前期授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	英語	担当教官名	鈴木 大作
対象学生	第1学年 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	医療英単語 略語 応用		
授業の概要 及び到達目標	<p>この授業では医療現場での英語を学びます。海外研修や専門分野へ進むときに備え、英語でのコミュニケーションスキルを養い、臨床やカルテで用いられる英語由来の医学用語を理解し、活用できるようになることを目標としています。</p> <p>実務者経験: 本校の理学療法科夜間部11期卒。奈良県生駒市にある急性期病院に入職、現在に至る。米国、オレゴン州出身。2009年に来日。来日以降、英会話講師としてプライベートレッスンや英会話スクールで英語を指導。</p>		
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門用語の概要(Introduction / Chapter 1,2 + Index) 2. 解剖学I(Human skeleton / Chapter 12) 3. 運動学I(Joint movements / Chapter 13) 4. 生理学I(Homeostasis / Chapter 8) 5. 医療用語(Rehabilitation / Chapter 13) 6. 医療用語(Medical record / Chapter 18) 7. 解剖学II(Skeletal muscles / Chapter 14) 8. 整形外科(Dx and Tx / Chapter 14) 9. 運動学II(Synovial joint / Chapter 13) 10. コミュニケーション(Upon examination / Chapter 7) 11. 生理学II(Systemic and Pulmonary Circulation / Chapter 8) 12. 内科学・神経内科学(Dx and Tx / Chapter 5) 13. 英文抄読(Abstract and conclusion) 14. 英文抄読(Cross Refrencing) 15. まとめ・試験 		
準備学習	上記Chapterの予習。高校英語の復習。		
教科書・教材等	MEDICAL ENGLISH COMMUNICATION 他 プリント		
授業の形式、 教育機器の活用	講義 会話練習 グループワーク プレゼンテーション 小テスト		
成績評価の方法	定期試験 90%、平常点(出席率、小テストの点等)10%		
担当教官から (履修にあたっての 留意点)	日本という環境において英語は圧倒的に少数言語です。能動的に活用していかないと習得が困難なため、講義は最小限に、アクティビティは最大限に、を意識して展開していきます。授業内容は前期で学ぶであろう解剖学、運動学、生理学の基礎知識に沿って進めてまいります。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	理学療法概論	担当教官名	磯部 由美 他
対象学生	第1学年 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	理学療法の歴史 定義 法律 様々な分野 心理		
授業の概要 及び到達目標	<p>理学療法の歴史・定義、関係法規、業務内容について学び職業理解を深めるとともに、それぞれの教員が得意分野での講義をし実際の現場についてお話を聞きます。</p> <p>到達目標は理学療法の概要を簡単に説明できる。理学療法の職域が広いことを知り、漠然とでいいので自分の興味のある分野を見つけることができる。興味をもった分野に関して自分調べ、クラス内でプレゼンテーションができる。教員の経歴:1996年、理学療法士免許取得後、理学療法士としてリハビリテーションセンター、病院、クリニック、訪問リハ、高齢者施設、介護予防教室、海外での理学療法など様々な場所で仕事をしてきました。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> ①理学療法士の役割とその職域 ②理学療法士の役割とその職域 ③理学療法の歴史 ④理学療法の法律制度 ⑤理学療法と心理・メンタルヘルスの対応 ⑥整形外科クリニックの理学療法 ⑦生活期の理学療法 ⑧地域理学療法について ⑨小児の理学療法 ⑩海外・災害時の理学療法 ⑪回復期・中枢神経疾患 ⑫急性期の理学療法 ⑬呼吸器疾患の理学療法・国家試験について ⑭スポーツ分野の理学療法 ⑮まとめ 		
準備学習	わからない言葉はその都度調べるまたは積極的に質問してください。		
教科書・教材等	こちらで準備をします。		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式 授業毎のレポート作成		
成績評価の方法	9回の授業毎のレポート(60%) 各小テスト(30%) 出席点(10%)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	理学療法士と一口に言っても働く分野や場所は様々です。理学療法士の基本的なことを学びながら、今後皆さんの理学療法士としての将来の方向をイメージできたらと思います。現時点では自分の方向性をイメージできなくても理学療法士はとて可能性のある仕事だと知ってもらえたらと思います。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	情報科学	担当教官名	深津 富栄
対象学生	第1学年 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	Word Excel PowerPoint タイピング アクセシビリティ プレゼンテーション キャリアデザイン		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 コンピューターの基礎的な操作方法から応用までを学び、 ①Word・Excel・PowerPointの効率的で実践に役立つ操作方法を取得する。 ②レポート作成やプレゼンテーションの資料作成・発表のスキルを身に付ける。</p> <p>到達目標 ①Wordを使用し、簡潔で説得力のある質の高い文書が作成できる。 ②Excelを使用し、効率の良いデータの処理分析、目的に応じた適切な資料作成ができる。 ③PowerPointを使用し、見やすく説得力のあるスライドを作成する。 作成したスライドを使って、内容をわかりやすく発表することができる。 ④就職後のOA処理業務に役立てることができる。</p> <p>実務者経験 Microsoft オフィシャルトレーナー・IT系国家資格を取得し、ICT企業にてコンテンツ制作・システム管理・IT技術研修を担当。2000年より大学・滋慶学園で情報処理・MOS対策授業の教鞭を取り、約1万人近くを合格に導いています。</p>		
講義計画・内容	1 オリエンテーション Windows基礎 Word① 2 ITガイダンス ITリテラシー理解度テスト 3 Word② 小テスト① 4 Word③ Word課題 5 Excel① 6 Excel② 小テスト② 7 Excel③ 8 Excel④ 9 Excel⑤ Excel課題 10 PowerPoint① 11 PowerPoint② 12 PowerPoint③ 小テスト③ 13 PowerPoint④ 14 PowerPoint⑤ 15 PowerPoint⑥ プレゼンテーション研究発表会 (PowerPoint課題)		
準備学習	パソコンの基本操作(入力・保存方法など)を確認しておいてください。		
教科書・教材等	よくわかる Word2021 & Excel2021 & PowerPoint2021 FOM出版		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習		
成績評価の方法	授業内課題(Word・Excel)、発表(プレゼンテーション): 70% 平常点: 20% 出席点: 10%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	Word・Excel・PowerPointは実務で必須のアプリケーションソフトです。適正かつ効率的に使いこなせるよう、スキルを身につけていきます。またタイピングも取り入れ、一般社会のOA処理業務でも効率的で質の良い資料作成が出来るように実習していきます。自身で効率よく操作が出来るよう積極的に取り組んでください。 1回目授業持ち物: テキスト、筆記用具		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基準)	基礎分野
授業科目名	人間関係論	担当教官名	森田卓麻 磯部由美 樋場八裕
対象学生	第1学年 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	自己理解、他者理解、謙虚、多様性		
授業の概要 及び到達目標	<p>【授業の概要】 理学療法士の倫理綱領には、全ての人の尊厳と権利を尊重、全ての人に平等、関係職種とも連携、後進の育成、理学療法の発展ならびに普及・啓発といった言葉が記載されています。 この授業では、それらを実践していく上で、理学療法士として必要なコミュニケーション力を学んでいただく機会としたいと考えています。</p> <p>【到達目標】 1. 良好な人間関係形成に必要な自己理解を深める 2. 人間関係に関する理論を知り自分自身で考える材料を得る 3. 他者理解のための技術を学び、実践で行動する</p> <p>【実務経験】 森田：一般病床、地域包括ケア病床、訪問リハ、通所リハにて約7年理学療法士として勤務。入院患者と訪問リハビリ利用者に対してリハビリ業務に従事。主に、地域に根差した医療に関わり、一人一人の社会的背景を踏まえつつ、地域全体でQOLを維持した生活ができるようにリハビリを行い、地域の活性化に努めた。 磯部：理学療法士として約25年、臨床経験と学生さんの教育に関わってきました。リハビリテーションセンター、介護老人保健施設、海外、総合病院、整形外科クリニック、訪問リハ、介護予防教室、養成校の経験で常に人間関係の構築が大事だと考えています。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.コミュニケーション基礎AB 3.伝えること/言葉の意味/ノンバーバルな方法 4.伝えること/応用編 5.聴くこと/傾聴 6.聴くこと/相手を理解、分析する、質問力 7.自己理解/自分の感情を理解する 8.相手を理解、分析する 9.論理的思考/多様性について 10.ホスピタリティ講義 11.ホスピタリティ(グループワーク) 12.ホスピタリティ(グループワーク) 13.ホスピタリティ(発表) 14.ホスピタリティ(発表) 15.ホスピタリティ(まとめ) 		
準備学習	人間関係を考える上で、自己と他者で構成される社会を知ることとはとても重要です。授業に関係のないことであっても、広く社会に興味をもち情報収集してってください		
教科書・教材等	授業で資料を配布します		
授業の形式 教育機器の活用	講義、およびグループワーク、チームでのプレゼンテーションなどを予定		
成績評価の方法	授業内で実施する実技試験(プレゼンテーション等)により評価		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	人間関係は一方通行ではありません。自分自身を知り、他者を理解し、相互に支え合いながら社会を構成していくことにほかなりません。謙虚に自分自身を見つめ、他者に感謝する姿勢を意識して授業に臨んでください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	解剖学 I	担当教官名	中原 峻
対象学生	第1学年 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	骨 筋 靭帯 人体の構成		
授業の概要 及び到達目標	<p>解剖学の知識は、実際に理学療法を行う上で不可欠である。本講義により人体構造の基本的知識を学び、なかでも動きに関わる筋・骨格系については機能に関連付けて説明できる。さらに解剖学的思考力を養い、理学療法士となるための礎をつくることを目標とする。</p> <p>【実務者経験】 運動機能解析に関する研究を遂行し、これまでにリハビリテーションにおける国内外の学会で発表、討論してきた。また整形外科クリニックや老人介護保健施設など、さまざまなフェーズにおける臨床経験をはじめ、海外ボランティアによる国際協力の経験も有する。本講義では研究及び臨床で得た知識を通じて多角的な視点から講義を行っていききたい。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. イントロダクション、人体の構造、細胞について 3. 4. 人体の構造:組織・器官・発生 5. 6. 骨格:総論・各論頭部 7. 8. 骨格各論:頭部続き・脊柱 9. 10. 骨格各論:上肢 11. 12. 骨格各論:下肢 13. 14. 関節靭帯:総論、各論頭蓋、脊柱 15. 16. 関節靭帯各論:上肢 17. 18. 関節靭帯各論:下肢 19. 20. 筋:総論、解剖生理学 21. 22. 筋各論:頭部・体幹 23. 24. 筋各論:上肢 25. 26. 筋各論:下肢 27. 28. 骨筋両方:上下肢、体表解剖学 29. 30. まとめ 		
準備学習	教科書を読む。毎回授業開始時に、前回の復習テストを行うので、復習をしっかりと行うようにすること。		
教科書・教材等	標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版(医学書院) ネッター 解剖学アトラス 原書第6版(南江堂)''		
授業の形式 教育機器の活用	講義 骨模型・視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験80%、平常点(毎回のミニテスト結果、出席点)20%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	解剖学は理学療法学を学ぶ上での基礎であり、他職種の医療従事者との共通言語です。毎回の授業内容について、できる限り自身の体で触って確かめること。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	理学療法関連技術論 I	担当教官名	伊藤 美加
対象学生	第1学年 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	医療人としての身だしなみ コミュニケーション 問診 血圧・脈拍測定 見学実習		
授業の概要 及び到達目標	<p>当該学年の年度末にある見学実習に向けて、医療人としての身構え・心構え、身だしなみを確認しながら、現場で必要な立ち居振る舞いを学びます。そして、患者さんを診るにあたって基本となる問診や血圧・脈拍測定の実技練習を行います。また見学実習での見学の仕方やデリリーノートの書き方を学びます。</p> <p>到達目標は見学実習の場面で医療人として行動し、スタッフの方、患者様・利用者様と良好な関係を築くことができる。能動的に見学実習で学べることができるとです。</p> <p>※実務者経験：一般病院では、超急性期から回復期、ターミナルケアにて従事。またクリニック、介護老人保健施設、デイケアでの勤務もあり。</p>		
講義計画・内容	<p>以下の予定で授業を進めます。</p> <p>①オリエンテーション・臨床実習について ②理学療法士としての基本事項(身だしなみ・立ち居振る舞い・コミュニケーション)③理学療法士としての基本事項(身だしなみ・立ち居振る舞い・コミュニケーション)④療法士面接(講義) ⑤療法士面接(実技) ⑥血圧測定と脈拍測定(講義) ⑦血圧測定と脈拍測定(講義) ⑧血圧測定と脈拍測定(実技) ⑨血圧測定と脈拍測定(実技) ⑩血圧測定と脈拍測定(実技) ⑪血圧測定と脈拍測定(実技試験) ⑫血圧測定と脈拍測定(実技試験) ⑬歩行について(講義) ⑭介助方法(実技) ⑮まとめ</p>		
準備学習	学内でも心地のよいコミュニケーションや責任のある行動をお願いします。		
教科書・教材等	資料はこちらで準備します。実習着は準備してください。		
授業の形式 教育機器の活用	講義と実技		
成績評価の方法	実技試験(40%) 筆記試験(50%) 平常点(10%)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	理学療法士として仕事をするうえで大切なのは患者さんやその家族、一緒に働く職員との信頼関係だと思います。理学療法士になるための知識・技術は不可欠ですが、まずは信頼関係構築や責任感を持って行動できるような立ち居振る舞いを学びましょう。		

2024年度京都医健専門学校授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	社会保障制度論	担当教官名	南條 千人
対象学生	第1学年 夜間部	履修学期	集中講座
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	社会保障、経済成長、社会福祉、今後の日本		
授業の概要 及び到達目標	<p>【授業の概要】 我が国における社会保障・社会福祉は、テレビ・新聞等に取り上げられない日がないほどポピュラーになっているものの、一方では、学問としてとらえると難しいと敬遠されているのが現状です。そこで授業では、社会保障・社会福祉の体系や理念を学び、少しでも身近なものと感じ興味を持っていただくと思っています。</p> <p>【実務者経験】 大学院にて、社会福祉学を専攻しており、日本国民の現在の状況を調査していました。</p>		
講義計画・内容	<p>1. わが国の現在の状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障とは 2. 社会保障と経済成長 2. 子どもを産み育てやすい環境づくり 3. 働き方改革の推進などを通じた労働環境の整備など 3. 女性、若者、高齢者等の多様な働きでの参画 4. 若者も高齢者も安心できる年金制度の確立 4. 医療関連イノベーションの推進 5. 国民が安心できる持続可能な医療・介護の実現 5. 健康で安全な生活の確保 6. 障害者支援の総合的な推進 6. 国際社会への貢献 7. 行政体制の整備・情報政策の推進 8. まとめ 		
準備学習	事前に資料を配布しますので目を通したり、気になるキーワードは調べてみて下さい。		
教科書・教材等	資料配布		
授業の形式 教育機器の活用	主に講義形式、グループディスカッションをとります。		
成績評価の方法	レポート課題(90%)、平常点(10%)		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	世の中の動きに関心を持って下さい。 ニュースや新聞を読むことをお勧めします。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基準)	専門基礎分野
授業科目名	チーム医療論	担 当 教 官 名	伊藤 美加 他
対 象 学 生	第1年生 夜間部	履 修 学 期	集中講義
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	多職種連携、作業療法士、言語聴覚士、介護支援専門員		
授業の概要 及び到達目標	理学療法士と協同して働く職種についてその業務と役割を理解する。そのうえで、多職種の連携を学び、その機能を実践できる力を習得する。 ※実務者経験：一般病院では、超急性期から回復期、ターミナルケアにて従事。またクリニック、介護老人保健施設、デイケアでの勤務もあり。		
講義計画・内容	第1回：チーム医療の考え方 第2回、第3回：作業療法士の業務と役割 第4回、第5回：言語聴覚士の業務と役割 第6回、第7回：介護支援専門員の業務と役割 第8回：チーム連携の在り方(GW,発表)		
準備学習	復習中心に行ってください。		
教科書・教材等	随時資料配布		
授業の形式 教育機器の活用	講義、演習		
成績評価の方法	GW,発表、レポート(90%)平常点(10%)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	他職種の理解をすることで、理学療法士の役割を深く理解することにつながります。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	倫理学	担当教官名	磯部 由美 稲原 健輔
対象学生	第1学年 夜間部	履修学期	集中講義
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	生命倫理 職業倫理 社会保障		
授業の概要 及び到達目標	<p>今後、医療専門職になる学生にとって、自身の考え方の根幹になる授業になる。トピックス的にテーマを提示し、その解説を行う。自身でテーマについて定義を話すことができるようになり、また、そのテーマについて自分の考えを言えるようになる。</p> <p>【実務経験】1996年、理学療法士免許取得後、リハビリテーションセンター、病院、クリニック、介護老人保健施設、訪問リハビリテーションにて長年働いてきました。現場で患者さん・その家族と長年関わる中で医療倫理に常に対峙してきました。また、2009年から京都医健専門学校にて教員として勤務、現在に至ります。医療の進歩とともに倫理的な問題も多くでており常に検討する必要性を感じています(磯部)</p> <p>【実務経験】1999年～2005年、肢体不自由児母子通園施設にて勤務し、障害児療育に関わる。2006年10月～2007年10月、一般病院のリハビリテーション科長として勤務。2001年12月～現在、訪問看護ステーションの業務として在宅での理学療法に従事。2009年～現在、大阪府門真市の教育委員会委託業務として市内の公立幼稚園・小学校・中学校の支援学級において障害児相談業務に携わる。2007年10月～現在、京都医健専門学校で教員として勤務。運動学、評価学、人間発達学、倫理学の講義や担任業務等に従事。(稲原)</p>		
講義計画・内容	<p>1回目:オリエンテーション・倫理とは 2回目:倫理総論、医療倫理の歴史 3回目:倫理総論、医療倫理の歴史 4回目:生命倫理「出生前診断」 5回目:生命倫理「優生思想」 6回目:生命倫理「パターンリズム」 7回目:生命倫理「生殖補助医療技術」 8回目:生命倫理「医療ネグレクト」 9回目:死の医療倫理「安楽死と尊厳死」① 10回目:死の医療倫理「安楽死と尊厳死」② 11回目:医療倫理「遺伝子操作と再生医療」① 12回目:医療倫理「遺伝子操作と再生医療」② 13回目:死の医療倫理「臓器移植」① 14回目:死の医療倫理「臓器移植」② 15回目:まとめ</p>		
準備学習	授業中に提示されたテーマについて、自分自身の考え方をまとめることを復習で行うこと。復習時間を含めて単位時間としている。		
教科書・教材等	配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式が中心であるが、理解を深めるため視聴覚教材の活用やグループ討議を行う。		
成績評価の方法	授業毎のレポート提出(70%)レポート試験(20%)、平常点(10%)		
担当教官から (履修に当たって の留意点)	単純に知識を吸収するだけではなく、テーマについて深く考え、自身の考え方を養ってもらいたい。そのため、受け身の学習ではなく、能動的に授業に参加してもらいたい		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画 (シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	運動療法技術総論 I	担当教官名	堀井 秀樹
対象学生	第1学年 夜間部	履修学期	集中講座
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	運動 トレーニング 収縮・弛緩 関節可動域 筋力・筋持久力 協調性		
授業の概要 及び到達目標	<p>運動療法とは「身体の機能に何らかの障害や低下がある場合、これを運動によって回復または維持、予防させること」であり、理学療法士における大きな柱として重要な役割を果たしています。</p> <p>この授業では、運動療法を実施していく上で必要となる基礎的な知識の活用と基礎的な技術を習得する事を目的に授業を行います。</p> <p>実務者経験: 理学療法士としてクリニックや訪問リハビリ、高齢者施設で勤務していました。介護予防推進リーダー。地域包括ケア推進リーダー。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動療法学総論① 2. 運動療法学総論② 3. 運動の全身的影響と運動療法① 4. 運動の全身的影響と運動療法② 5. 関節可動域訓練① 6. 関節可動域訓練② 7. 筋力増強訓練① 8. 筋力増強訓練② 9. 筋持久力増強訓練① 10. 筋持久力増強訓練② 11. 運動療法メニューを組んでみよう 12. 呼吸訓練・協調性訓練 13. 特殊訓練 14. 機能統合訓練 15. まとめ 		
準備学習	基本的な知識の確認を教科書を用い予習・復習を行ってください。		
教科書・教材等	運動療法学テキスト 改訂第3版 (南江堂)		
授業の形式 教育機器の活用	座学・実技		
成績評価の方法	定期試験90%、平常点10%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	この授業では、理学療法士にとって必要不可欠な知識・技術を学びます。学びを深め、理解し、繰り返し練習することによって修得できる物になりますので積極的に参加してください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	生理学	担 当 教 官 名	小倉 基裕
対 象 学 生	第1学年 夜間部	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授 業 回 数	30回
授業のキーワード	生理学は生体の機能とそのメカニズムを解明と理解 理学療法分野の専門職を目指す		
授業の概要 及び到達目標	<p>ヒトを対象とする理学療法分野の専門科目を学ぶにあたり、疾患に合わせてリハビリテーションは人体の正常な機能を理解することは必須である。また、生理学は疾患の原因、症状などを理解する上で不可欠な学問である。本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①理学療法士を目指す学生に必要な正常な生体の機能について、各器官独自の機能の発現と調節機序に基づいて説明できる。</p> <p>②それら緒器官相互の協調的な働きにより初めて全体としての人体の働きが発現することを理解し、説明できる。</p> <p>③そのために生体現象の機序をできるだけわかりやすく総合的に分析ができる。</p> <p>実務者経験:医学博士20年数年に渡り医学部大学病理学、クスの開発安全性部門に所属する。人体病理学・実験病理学・薬学を通じ人体の病気について研究してきた。その中で疾病・疾患を通じて臨床の医師とも討論し、人体の正常(生理学、解剖学)、疾病・疾患に通じてきた。また、長年医学生、コメディカルの学生の教育にも携わってきた。その中で得られた知識について生理学を通して教育していきたい。</p>		
講義計画・内容	1.生命現象と人体(1) 2.生命現象と人体(2)細胞の機能と構造 3.神経興奮伝導と末梢神経(1) 4.神経興奮伝導と末梢神経(2) 5.中枢神経系(1) 6.中枢神経系(2) 7.中枢神経系(3) 8.筋と骨(1) 9.筋と骨(2) 10.感覚(1) 11.感覚(2) 12.血液(1) 13.血液(2) 14.心臓と循環(1) 15.心臓と循環(2)	16.呼吸とガスの運搬(1) 17.呼吸とガスの運搬(2) 18.尿の生成と排泄(1) 19.尿の生成と排泄(2) 20.酸と塩基平衡 21.消化と吸収(1) 22.消化と吸収(2) 23.消化と吸収(3) 24.内分泌(1) 25.内分泌(2) 26.内分泌(3) 27.代謝と体温(1) 28.代謝と体温(2) 29.代謝と体温 30.生殖と発生・成長と老化	
準備学習	生理学に置いては正常な人体の機能、解剖学で学ぶ構造については理解しておく。特に主要な理学療法繋がる場所は理解しておく。定期的に小テストを行う。定期試験につながる内容であるので、小テスト前後は特に予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	標準理学療法学・作業療法学「生理学」【改定第5版】医学書院 生理学ハンドブックナツメ社		
授業の形式 教育機器の活用	講義 補助資料としてプリント利用		
成績評価の方法	定期試験(前期・後期各1回・加えて小テストの点数レポート等)90% 平常点集積率等)10%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	生理学を理解するうえで解剖学の知識は欠かせません。本講義では国家試験に対応するための知識だけでなく、なるべく臨床に役立つ知識もお話したいと考えています。授業に積極的に取り組んで下さい。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画 (シラバス)

学 科	理学療法学科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	保健体育	担当教官名	南條 千人・酒井 祐子
対象学生	第1学年 夜間部	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	テーピング、足関節、捻挫、筋力トレーニング、ストレッチング		
授業の概要 及び到達目標	<p>【授業の概要】 スポーツ理学療法にとって動作を評価・分析することは日常に行われる。様々な動作を力学的観点から学び、評価・分析が正しく出来るように知識や技術を深める。また、テーピングでの施術はスポーツ現場ではもちろん整形外科などの医療現場でも実際に使われている。理学療法士にとっても必要な技術となる。本講義では下記に示す内容を到達目標に実技中心の講義を進める。</p> <p>【到達目標】 ①動作を力学的に説明ができる ②テーピングの基礎知識を理解し、説明できる③テーピングを正しく機能的に施せるようになる</p> <p>【実務経験】 中・高教諭[1種]免許状(保健体育) その他、多数スポーツ現場でのサポート経験あり。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 柔軟性・筋力増強について 3. テーピングの基礎知識 4. ストレッチングについて(頸部・上肢)、筋力トレーニング 5. テーピングの実際(足関節前半) 6. ストレッチングについて(上肢・体幹)、筋力トレーニング 7. テーピングの実際(足関節後半) 8. ストレッチングについて(股関節)、筋力トレーニング 9. テーピングの実際(膝関節前半) 10. ストレッチングについて(膝関節)、筋力トレーニング 11. テーピングの実際(膝関節後半) 12. ストレッチングについて(足関節)、筋力トレーニング 13. 実技練習① 14. 実技練習② 15. 発表・レポート課題 		
準備学習	足関節の解剖、機能については理解しておく		
教科書・教材等	非伸縮テープ(38mm)・アンダーラップ		
授業の形式 教育機器の活用	実技、演習		
成績評価の方法	レポート・発表課題 90%、平常点10%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	運動を考える上で力学は欠かせません。学生に分かりやすいように、実際のスポーツを例にしながら興味を持ってもらえるようにしたいと思っています。また、テーピングはスポーツだけでなく臨床の現場でも技術が求められています。テーピングに対する理解を深めていきたいと思ひます。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基準)	専門基礎
授業科目名	理学療法関連学 I	担当教官名	東 隆史、金谷 由美 他
対象学生	第1年生 夜間部	履修学期	集中講義
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	リハビリと栄養、普通救命救急、ファーストエイド		
授業の概要 及び到達目標	<p>この授業では栄養学と救命救急について学習する。栄養ではリハビリテーションに必要な栄養の基礎知識を学び、今後理学療法の効果を高めるような知識の習得を図る。救命救急については普通救命救急の演習を行い、AEDの使い方、心肺蘇生法を習得する。</p> <p>この授業では栄養学と救命救急について学習する。栄養ではリハビリテーションに必要な栄養の基礎知識を学び、今後理学療法の効果を高めるような知識の習得を図る。救命救急については普通救命救急の演習を行い、AEDの使い方、心肺蘇生法を習得する。</p> <p>実務者経験 東：2005年に理学療法士資格取得後、身体障がい者施設をベースにクリニック(整形外科、内科)、老人保健施設、通所リハビリ、通所介護などで実務を行う。 金谷：一般病床、地域包括ケア病床、訪問リハにて約6年理学療法士として勤務。入院患者と訪問リハビリ利用者に対してリハビリ業務に従事。主に、在宅に関わり、一人一人の社会的背景を踏まえつつ、QOLを維持した生活ができるよう、在宅生活の支援を行っていた。</p>		
講義計画・内容	第1回 リハ栄養の重要性、食事バランスガイド 第2回 低栄養の評価と原因 第3回 運動栄養学とリハビリテーション 第4回 リハ効果を高める栄養管理 第5回 ファーストエイドについて 第6回 ファーストエイドについて 第7回 救命救急(講義) 第8回 救命救急(実技)		
準備学習	授業の復習を中心に行ってください		
教科書・教材等	資料を随時配布		
授業の形式 教育機器の活用	講義 演習		
成績評価の方法	第1から4回授業小テスト30%、第5、6回授業小テスト30%、第7、8回授業小テスト30%、平常点10%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	今後の理学療法の学習に直結する内容になっています。理学療法士以外の講師から学ぶよい機会となりますので、積極的に学ぶ姿勢で授業に臨んでください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	理学療法評価学 I	担当教官名	東 隆史
対象学生	第1学年 夜間部	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	理学療法評価の考え方 形態計測 関節可動域測定		
授業の概要 及び到達目標	<p>理学療法評価の考え方やその流れについて理解する。あわせて基礎的な検査技術(関節可動域測定法や形態計測)について理解をするとともに実技を通じてその技術を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法評価の流れや考え方を理解する。 ・関節可動域測定法と形態計測についての知識を得る(国家試験レベルは最低限理解する)。 ・関節可動域測定法と形態計測についての技術を習得する(学生間で評価技術が行える程度は最低限できるようになる) <p>担当教員は2005年に理学療法士資格取得後、身体障がい者施設をベースにクリニック(整形外科、内科)、老人保健施設、通所リハビリ、通所介護などで実務を行う。</p>		
講義計画・内容	<p>第1回 授業オリエンテーション、理学療法過程、理学療法評価過程 第2回 測定(上肢長、上腕長、前腕長) 第3回 測定(下肢長、大腿長、下腿長) 第4回 測定 第5回 ROM測定(上肢)(1) 第6回 ROM測定(上肢)(2) 第7回 ROM測定(下肢) 第8回 ROM測定(1) 第9回 ROM測定(2) 第10回 ROM測定・形態計測(1) 第11回 ROM測定・形態計測(2) 第12回 ROM測定・形態計測(3) 第13回 実技試験(1) 第14回 実技試験(1) 第15回 評価のまとめ</p> <p>技術を実施するに当たり必要な知識、実施方法を学科で行い、実技で技術の習得を図る。 評価とは、評価の過程、トップダウンとボトムアップ 形態計測(上肢長・下肢長・断端長/周径) 関節可動域検査法</p>		
準備学習	基本軸、移動軸、参考角度等を覚えて臨みましょう。		
教科書・教材等	標準理学療法学 理学療法評価学(医学書院)		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式と実技形式の併用		
成績評価の方法	筆記試験40% 実技試験50% 平常点10%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>学科と実技を併用して行う。理学療法士として当たり前前に理解し、実施できることが求められる分野であるので積極的かつ能動的な態度で授業に参加することを強く望みます。 そのための自主練習や自習は担当教員も積極的にフォローします。</p>		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	触察実習	担当教官名	牧 勝広
対象学生	第1学年 夜間部	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	解剖・触診・視診		
授業の概要 及び到達目標	<p>解剖学的知識を持ったうえで、さらに身体の各箇所(骨・筋を中心に)の触診ができる。また、健常者でも骨の形状や大きさ、筋のボリューム、形状に差異がある事が触知できる。</p> <p>【実務経験】 回復期病院で脳血管障害を中心に回復期リハ、高齢者施設での在宅生活支援に関わってきた。</p>		
講義計画・内容	<p>1回目:授業オリエンテーション、頭蓋骨、頸椎 2回目:胸椎、腰椎、仙骨、胸骨、肋骨 3回目:肩甲骨、上腕骨 4回目:前腕、手根骨 5回目:骨盤、大腿骨 6回目:下腿、足根骨 7回目:体幹の筋 8回目:肩甲帯、上腕の筋 9回目:前腕の筋、手内筋 10回目:下肢筋 11回目:下肢筋 12回目:まとめ 13、14回目:実技テスト 15回目:実技テスト、フィードバック</p>		
準備学習	<p>実技を中心に時間を割きますので、骨・筋・関節に関する解剖学は理解しているものとして授業を進めます。必ず各授業前に該当箇所を復習した上で授業に臨んで下さい。 また毎回実技を行います。白衣等、実習に適した身なりで出席する事。</p>		
教科書・教材等	運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢、下肢・体幹)[第2版]		
授業の形式 教育機器の活用	実技を中心に講義も含む 骨・筋模型・視聴覚機器利用		
成績評価の方法	筆記試験40% 実技試験50% 平常点10%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	触診は理学療法を行う上で最も基礎となる技術です。この授業を通じてその技術をしっかり学んで下さい。また、実技練習も繰り返し行って下さい。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	解剖学Ⅱ	担当教官名	安場 広高
対象学生	第1学年 夜間部	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	人体の内臓の構造と脈管系		
授業の概要 及び到達目標	<p>人体の内臓系の構造を知ることには生理学で内臓の機能を理解するための基礎となるばかりでなく、病理学や他の臨床系教科の理解へとつながる。</p> <p>実務者経験: H3年高槻赤十字病院呼吸器科勤務、H12年高槻赤十字病院 呼吸器科部長兼アレルギー科部長、H15年4月～H19年1月 京都大学臨床教授、H19年2月より 三菱京都病院 呼吸器・アレルギー内科部長として勤務。</p> <p>日本内科学会 認定内科医、研修指導医、日本呼吸器学会 呼吸器専門医、指導医、日本アレルギー学会 専門医、指導医、日本呼吸器内視鏡学会 専門医、指導医、日本睡眠学会 会員、Airway Medicine 研究会代表世話人として活動している。</p>		
講義計画・内容	<p>第1回 V. 内臓学・総論 p48～</p> <p>第2回 消化器系(1)</p> <p>第3回 消化器系(2)</p> <p>第4回 呼吸器系(1)</p> <p>第5回 呼吸器系(2)</p> <p>第6回 泌尿器系(1)</p> <p>第7回 泌尿器系(2)</p> <p>第8回 生殖器系</p> <p>第9回 内分泌系</p> <p>第10回 IV. 循環器系・総論 p19～</p> <p>第11回 心臓(1)</p> <p>第12回 心臓(2)</p> <p>第13回 脈管系(動脈系・静脈系 胎児循環)</p> <p>第14回 リンパ管系</p> <p>第15回 まとめ</p>		
準備学習	特になし		
教科書・教材等	標準理学療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院)		
授業の形式 教育機器の活用	プリント配布		
成績評価の方法	学期末試験の評価(90%)と平常点(10%)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	医学系の勉強には解剖学の知識は欠かせません。 身体の中がイメージできるようになりましょう。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	心理学	担当教官名	大西 祝
対象学生	第1学年 夜間部	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	記憶・思考・学習・適応・発達		
授業の概要 及び到達目標	リハビリテーションは患者に対して一方向的に行うものではない。患者と医療従事者のお互いが理解、信頼することで、より良い治療へとつながっていくため、人間関係の理解に心理学の学習は非常に重要である。また心理学の知識により、身体機能の影響が心理面にも及ぼすことを理解し、心身両面からアプローチすることの重要性を学習する。		
講義計画・内容	<p>心理学は幅の広い学問であるが、理学療法士として特に学ぶべき分野について集中して学習する。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 心理学の歴史 第3回 感覚と知覚 第4回 知覚の仕組み(錯覚・幻覚など) 第5回 性格とパーソナリティ 第6回 性格検査について 第7回 学習の心理 第8回 記憶の心理 第9回 知能の心理 第10回 言語と感情 第11回 適応・ストレスの心理 第12回 防衛機制・動機付け 第13回 発達の心理 第14回 心理療法について 第15回 まとめ</p>		
準備学習	基礎レベル		
教科書・教材等	系統看護学講座 基礎分野心理学(医学書院)		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式		
成績評価の方法	定期試験、小テスト(90点) 出席等平常点(10点)		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	心理学は臨床の現場だけでなく、日常生活にも活かすことができます。興味を抱く一歩になってほしいと思います。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野																														
授業科目名	物理療法学	担当教官名	伊藤 美加																														
対象学生	第2学年 夜間部	履修学期	通年																														
必修・選択の別	必修	授業回数	30回																														
授業のキーワード	生態の反応、痛み、適応・禁忌 物理療法の種類、方法																																
授業の概要 及び到達目標	<p>物理療法にはどのようなものがあるのかを知る。また、物的手段(水、光、熱、電気、超音波、徒手)を身体に与えることによりどのような生体反応が起こりどのような効果を与えるか、また逆にどのような悪影響をおよぼすかを学ぶ。本講義では下記に示す内容を到達目標として講義を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 物理療法の分類が出来る。 2. 各種物理療法の生理的作用と治療目的が言える。 3. 物理療法の適応と禁忌が言える。 4. 物理療法が必要な患者様に実際に行えるようオリエンテーション・手順・注意事項が想起できる。 <p>実務者経験:一般病院では、超急性期から回復期、ターミナルケアにて従事。またクリニックでの勤務もあり。入院患者様から外来患者様の運動療法だけではなく、物理療法に携わってきた。</p>																																
講義計画・内容	<p>講義と実技を行う。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション、物理療法概論</td> <td>16. 寒冷療法</td> </tr> <tr> <td>2. 物理療法の分類、歴史</td> <td>17. 寒冷療法実技</td> </tr> <tr> <td>3. 物理療法の臨床適応と評価①</td> <td>18. 電気刺激療法①</td> </tr> <tr> <td>4. 物理療法の臨床適応と評価②</td> <td>19. 電気刺激療法②</td> </tr> <tr> <td>5. 物理療法の禁忌と適応</td> <td>20. 電気刺激療法③</td> </tr> <tr> <td>6. 物理療法の適応の多い病態理解①</td> <td>21. 電気刺激療法実習</td> </tr> <tr> <td>7. 物理療法の適応の多い病態理解②</td> <td>22. 光線療法</td> </tr> <tr> <td>8. 温熱療法概論</td> <td>23. 光線療法実技</td> </tr> <tr> <td>9. ホットパック</td> <td>24. 牽引療法</td> </tr> <tr> <td>10. パラフィン浴</td> <td>25. 水治療法①</td> </tr> <tr> <td>11. 極超短波</td> <td>26. 水治療法②</td> </tr> <tr> <td>12. 超音波</td> <td>27. 水治療法実技</td> </tr> <tr> <td>13. 温熱療法実習①</td> <td>28. 物理療法の臨床応用①</td> </tr> <tr> <td>14. 温熱療法実習②</td> <td>29. 物理療法の臨床応用②</td> </tr> <tr> <td>15. まとめ</td> <td>30. まとめ</td> </tr> </table>			1. オリエンテーション、物理療法概論	16. 寒冷療法	2. 物理療法の分類、歴史	17. 寒冷療法実技	3. 物理療法の臨床適応と評価①	18. 電気刺激療法①	4. 物理療法の臨床適応と評価②	19. 電気刺激療法②	5. 物理療法の禁忌と適応	20. 電気刺激療法③	6. 物理療法の適応の多い病態理解①	21. 電気刺激療法実習	7. 物理療法の適応の多い病態理解②	22. 光線療法	8. 温熱療法概論	23. 光線療法実技	9. ホットパック	24. 牽引療法	10. パラフィン浴	25. 水治療法①	11. 極超短波	26. 水治療法②	12. 超音波	27. 水治療法実技	13. 温熱療法実習①	28. 物理療法の臨床応用①	14. 温熱療法実習②	29. 物理療法の臨床応用②	15. まとめ	30. まとめ
1. オリエンテーション、物理療法概論	16. 寒冷療法																																
2. 物理療法の分類、歴史	17. 寒冷療法実技																																
3. 物理療法の臨床適応と評価①	18. 電気刺激療法①																																
4. 物理療法の臨床適応と評価②	19. 電気刺激療法②																																
5. 物理療法の禁忌と適応	20. 電気刺激療法③																																
6. 物理療法の適応の多い病態理解①	21. 電気刺激療法実習																																
7. 物理療法の適応の多い病態理解②	22. 光線療法																																
8. 温熱療法概論	23. 光線療法実技																																
9. ホットパック	24. 牽引療法																																
10. パラフィン浴	25. 水治療法①																																
11. 極超短波	26. 水治療法②																																
12. 超音波	27. 水治療法実技																																
13. 温熱療法実習①	28. 物理療法の臨床応用①																																
14. 温熱療法実習②	29. 物理療法の臨床応用②																																
15. まとめ	30. まとめ																																
準備学習	物理療法は病院、施設で良く使用されます。そのため、物理療法をより理解できるように、物理療法に必要な生理学、病理学の復習を行ってください。また、授業後には復習も行ってください。																																
教科書・教材等	最新 理学療法学講座 物理療法学																																
授業の形式 教育機器の活用	講義、実技																																
成績評価の方法	定期試験90%、平常点10%																																
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	理学療法の中で、運動療法と併用して行われる物理療法について学び、臨床現場で正しく、安全に、そして効果的に使用できるように理解してください。実習時に実際、物理療法を活用している現場を見る機会があるかと思います。その時に、どんな対象者にどんな目的にて物理療法を行っているのかを考え、そして、物理療法の効果まで考えてみてください。																																

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎科目
授業科目名	整形外科学	担当 教 官 名	西尾 健
対象学生	第2学年 夜間部	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	運動器疾患		
授業の概要 及び到達目標	<p>整形外科学は、運動器官への外傷や障害を対象とする臨床医学である。そのため解剖や機能等の基礎的な内容から、診察法・画像診断・検査や保存的治療・観血的治療まで理解することが必須となる。その中でも理学療法士はリハビリテーションに従事するが、保存的治療から手術後リハまで、さらにQOLに直結する介護の場面まで幅広く対応する必要がある。本講義では、系統立てて整理しながら授業を行い、さらに自己学習用の教材も使用しながら、下記に示す内容を到達目標にして講義を進める。</p> <p>なお、今年度は標準整形外科学に加え、配布プリントも用いて授業を行い、さらに一問一答式テキストを自己学習の教材として使用し、授業内容の一層の定着化を図る。</p> <p>実務者経験:平成2年から現在まで関節外科や脊髄損傷を中心に、リハビリテーションをはじめとする保存的治療から、手術による観血的治療まで行っている。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脊椎疾患 脊椎総論 2. 脊椎疾患 頸椎各論 3. 脊椎疾患 胸椎・腰椎各論 4. 脊椎疾患 腰椎各論 5. 股関節疾患 総論 6. 股関節疾患 変形性股関節症 7. 股関節疾患 外傷その他 8. 膝関節疾患 総論 9. 膝関節疾患 変形性膝関節症 10. 膝関節疾患 膝内障その他 11. 足・肩関節疾患 12. 肘・手関節疾患 13. 関節リウマチ 14. 関節リウマチ 15. 上半期振り返り 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 脊髄損傷 総論 17. 脊髄損傷 総論 18. 脊髄損傷 基礎編 19. 脊髄損傷 基礎編 20. 脊髄損傷 応用編 21. 脊髄損傷 応用編 22. 骨粗鬆症 23. 骨粗鬆症 24. 外傷(下肢)総論 25. 外傷(下肢)各論 26. 外傷(上肢)総論 27. 外傷(上肢)各論 28. 末梢神経障害 29. 末梢神経障害 30. 下半期振り返り 	
準備学習	前もって基礎的な解剖学を理解しておく。		
教科書・教材等	標準整形外科学 第13版 医学書院 配布プリント 一問一答式テキスト		
授業の形式 教育機器の活用	講義 全身骨模型・PC・プロジェクター利用		
成績評価の方法	定期試験(前期・後期各1回) 90% 平常点 10%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	<p>整形外科学は、四肢・体幹の筋・腱・骨・靭帯・神経など運動器官への外傷や障害を対象とする臨床医学です。疾患としては、脊椎変性疾患や脊髄損傷、変形性関節症に代表される関節の変性疾患、四肢・体幹の骨折や靭帯損傷などの外傷やスポーツ障害、骨粗鬆症や関節リウマチ、末梢神経障害等多岐にわたります。また治療としてはリハビリテーションをはじめ、保存的治療から手術による観血的治療と様々です。</p> <p>生活の質に直結することであり、これからの超高齢化社会にとって非常に重要な分野です。なお、整形外科学の理解を深めるために、今までに習った筋骨格系の解剖学をしっかりと復習して授業に臨んでください。また整形外科学の範囲は膨大ですから、試験前に慌てることのないように、授業の後は必ずコツコツと復習して身につけてください。</p>		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	基礎医学セミナーⅠ	担当教官名	菊井 由紀子、東 隆史、堀井 秀樹
対象学生	第2学年 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	解剖学 生理学 運動学 関節 筋 神経		
授業の概要 及び到達目標	<p>解剖学・生理学・運動学。これらは理学療法士の基盤になる学問であるということは明白です。しかしながら、それぞれの学問の知識が独立しているために、患者様の全体像理解が深まらないという学生が散見されます。</p> <p>本講義では、1年次に履修している解剖学・生理学・運動学それぞれの知識を統合して理解することを目標にします。(堀井)</p> <p>実務者経験:理学療法士としてクリニックや訪問リハビリ、高齢者施設にて高齢者の特性を考慮したリハビリテーションに従事していました。介護予防推進リーダー。地域包括ケア推進リーダー。(堀井)</p>		
講義計画・内容	<p>第1回:オリエンテーション・神経総論(堀井)</p> <p>第2回:中枢神経(堀井)</p> <p>第3回:末梢神経(堀井)</p> <p>第4回:運動神経・感覚神経(堀井)</p> <p>第5回:骨関節と筋①(堀井)</p> <p>第6回:骨関節と筋②(堀井)</p> <p>第7回:骨関節と筋③(堀井)</p> <p>第8回:消化管の解剖生理(菊井)</p> <p>第9回:肝臓の解剖生理(菊井)</p> <p>第10回:泌尿器・生殖器の解剖生理(菊井)</p> <p>第11回:消化器・泌尿器のまとめ(菊井)</p> <p>第12回:呼吸器の解剖生理(東)</p> <p>第13回:循環器の解剖生理(東)</p> <p>第14回:呼吸器・循環器のまとめ(東)</p> <p>第15回:総まとめ(東)</p>		
準備学習	単位取得に必要な時間に自宅学習が含まれていますので、必ず復習を実施してください。		
教科書・教材等	授業時の配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義、グループワーク、その他視聴覚機器の利用		
成績評価の方法	定期試験90%、平常点10%で評価し、総合60%以上を合格とする。		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	実習や臨床現場で患者様と関わる中で、理解しておかなければならない基礎的な分野の学習になります。積極的に授業に参加して自らの能力を向上させてください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	内科学	担当教官名	安場 広高
対象学生	第2学年 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	疾患の病態 診断 治療		
授業の概要 及び到達目標	<p>理学療法士にとって、その対象となる疾患の病態、診断、治療を、一度は頭に入れておく必要がある。また、医療チームの一員として、カンファレンスなどで飛び交う専門用語とその意味を理解しておくことも重要である。内科学の講義においては、臓器別に重要な疾患について学び、よく理解することで、卒業後により良い医療者としての知識と心構えをしっかりと持って、即戦力となることをめざす。</p> <p>実務者経験:H3年高槻赤十字病院呼吸器科勤務、H12年高槻赤十字病院 呼吸器科部長兼アレルギー科部長、H15年4月～H19年1月 京都大学臨床教授、H19年2月より 三菱京都病院 呼吸器・アレルギー内科部長として勤務。</p> <p>日本内科学会 認定内科医、研修指導医、日本呼吸器学会 呼吸器専門医、指導医、日本アレルギー学会 専門医、指導医、日本呼吸器内視鏡学会 専門医、指導医、日本睡眠学会 会員、Airway Medicine研究会代表世話人として活動している。</p>		
講義計画・内容	<p>循環器疾患、呼吸器疾患、感染症、消化器疾患、血液疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、腎・泌尿器疾患、膠原病性疾患 の順に講義を行う。プリントを配り、板書も併用することで、書いて覚えることも実践する。毎回、前回の内容を問う小テストを行い、知識の定着を図る。終盤には、模擬試験問題に取り組んで、期末試験や国家試験対策を行う。</p> <p>第1回 内科学とは 第2回 診断と治療 第3回 疾病学 第4回 循環器疾患 第5回 呼吸器疾患 第6回 消化管疾患 第7回 肝胆膵疾患 第8回 血液・造血器疾患 第9回 代謝性疾患 第10回 内分泌疾患 第11回 腎・泌尿器疾患 第12回 膠原病、アレルギー疾患 第13回 感染症疾患 第14回 中毒疾患 第15回 まとめ</p>		
準備学習	さまざまな内科疾患に普段から興味を持って調べるようにしておく。		
教科書・教材等	標準理学療法学 作業療法学 内科学第4版		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式		
成績評価の方法	定期試験90% 小テストの結果10%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	専門用語の漢字と英語を書けるようになることから始まる。知り合いからの病気の相談にも、興味を持ち、積極的に調べて、答えられるように心がけること。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	臨床心理学	担当教官名	住友 春美
対象学生	第2学年 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	精神障害、精神障害とライフサイクル、精神療法		
授業の概要 及び到達目標	<p>【授業の概要】対象者の状況を理解・対応するポイントを心理学的観点から学びます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①精神における疾患の症状と治療について理解し、説明できる</p> <p>②ライフサイクルにおける精神障害。心理社会的問題について理解し、説明できる</p> <p>③精神療法について、その治療について理解し、説明できる</p> <p>【実務者経験】</p> <p>臨床経験24年。大学の付属病院・精神神経科を経て、精神科・心療内科病院に所属。その後、現在、主として神経内科・精神科診療所に所属。心理学、臨床心理学に基づき、心身に疾患を有する患者の心理面を対象として、心理検査、心理面接、集団精神療法にて疾患・病態のアセスメント、治療を行っている。その他、発達・能力・コミュニケーションに問題を有する身体障害者・知的障害者を対象に発達・能力をアセスメントし、その支援に関わる人にコンサルテーションを行っている。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 理学療法と臨床心理学の関わり、精神的健康、臨床心理学概論(歴史、現状) 心理検査、神経症とDSM診断体系、不安障害 身体表現性障害、解離性障害、適応障害 パーソナリティ障害、摂食障害、統合失調症 思考障害、依存症、気分障害、てんかん 睡眠障害、性障害、子どもの精神障害とその周辺 老化とその障害、精神障害とライフサイクル 精神療法 まとめ 定期試験・試験解説 		
準備学習	心理学で学んだ、感覚、記憶、学習、発達について、再度、伴わせて理解を深めておく。臨床心理学で学んだ疾患名と、その症状を理解しておく。各精神療法と、その内容を理解しておく。予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	標準理学療法学・作業療法学(専門基礎分野)「臨床心理学」		医学書院
授業の形式 教育機器の活用	講義・視聴覚機器		
成績評価の方法	定期試験 90%、平常点(出席率) 10%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	傷ついた人と関わることの多い理学療法士を目指すにあたって、人の心理的側面にある生きにくさを理解するため、臨床心理学の知識は必要となります。本講義では国家試験に対応するための知識はもちろん、臨床のイメージが膨らむよう、臨床で関わるであろう症例についても具体的にお話したいと考えています。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	人間発達学	担当教官名	稲原 健輔
対象学生	第2学年 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	出生前発達、出生後発達、正常運動発達、人間生涯発達、原始反射		
授業の概要 及び到達目標	<p>人の一生を「生涯発達」として捉え、出生前から生涯を終える過程で生じる生理的(身体・運動)、解剖的、心理的発達について学習する。これにより、人の支援に関わる専門家が習得すべき発達、発達理解の基礎を形成することを目的とする。また、理学療法士に必要な正常発達を知り評価や治療の土台となる知識を準備する。</p> <p>実務経験:1999年～2005年、肢体不自由児母子通園施設にて理学療法士として勤務し、障害児療育に関わり運動発達障害児に関わる。2001年12月～現在、訪問看護ステーションの業務として在宅での小児患者へ理学療法を提供。2009年～現在、大阪府門真市の教育委員会からの委託業務として市内の公立幼稚園・小学校・中学校の支援学級において障害児の相談業務に携わる。2012年4月～2015年3月小児科クリニックにて発達障害児に対する外来理学療法に従事。</p>		
講義計画・内容	1回目:オリエンテーション、発達学総論 2回目:発達の原則、運動発達理論 3回目:出生前発達 4回目:周産期、新生児発達 5回目:正常運動発達(0～6か月) 6回目:正常運動発達(6～12か月) 7回目:正常運動発達(坐位) 8回目:正常運動発達(微細運動) 9回目:原始反射 10回目:平衡反応 11回目:発達検査、評価法 12回目:学童期の発達 13回目:青年期、成人期の発達 14回目:老年期の発達 15回目:まとめ		
準備学習	発達とはじめて学習する内容が多い分野です。各回で次に進む内容を確認しますので、予習を行ってください。また正常運動発達は、運動学の知識も必要です。基礎的な内容はもちろん、毎回の授業内容を復習するようにしてください。		
教科書・教材等	リハビリテーションのための人間発達学 第3版、教官作成資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験および講義内ワーク90%、平常点10%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	人の運動の基礎がどのように獲得されるかを学びます。また評価学でも学ぶ反射・反応が、運動発達にどのように影響するかも学びます。これらは、小児理学療法で必要となる基礎知識になります。さらに、国家試験でも必要な情報です。人間発達で学ぶ内容が、心理学や各専門課程でも基礎知識として必要でありつながりが多い分野です。次につながる重要な情報であると認識して取り組むようにしてください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	運動学Ⅱ	担当教官名	南條 千人
対象学生	第2学年 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	運動学, 運動力学, 生体力学(てこ・モーメントなど), 運動器(骨・筋・関節・靭帯など)		
授業の概要 及び到達目標	<p>【授業の概要】 運動学の基礎を学習することで、後期の運動学各論(各関節の運動)の理解ができるようにして下さい。運動学は理学療法士にとって必修の教科であるとともに、「運動」を用いて患者を治療する「運動療法」を実施するにあたっては、必ず理解をしておかなければならない学問となります。</p> <p>【到達目標】 ・運動の分類、運動器(骨・関節・筋など)の構造と機能が理解できることが目標です。 ・生体力学(てこ、モーメント、Newtonの運動法則、力学的エネルギーなど)が理解できることが目標です。</p> <p>【実務者経験】 一般病院で、成人、高齢者、スポーツ選手を含む整形外科的疾患を持つ患者を対象に運動学・臨床運動学に基づいたリハビリテーションを行っていました。</p>		
講義計画・内容	<p>1回目 姿勢について① 2回目 姿勢について② 3回目 姿勢について③ ※小テスト予定 4回目 歩行について① 5回目 歩行について② 6回目 歩行について③ ※小テスト予定 7回目 運動中の下肢の機能① 8回目 運動中の下肢の機能② 9回目 運動中の下肢の機能③ ※小テスト予定 10回目 運動学習について① 11回目 運動学習について② ※小テスト予定 12回目 姿勢、歩行の観察について① 13回目 姿勢、歩行の観察について② 14回目 姿勢、歩行の観察について③ ※小テスト予定 15回目 まとめ、試験解説</p>		
準備学習	解剖学の内容と重なっている箇所(主要な筋の起始・停止・神経支配)は理解しておいて下さい。定期的に小テストを行います。定期試験につながる内容でありますので、小テスト前後は特に予習・復習を行うようにして下さい。		
教科書・教材等	基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版株式会社 配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	主に講義形式, 必要に応じて実技形式をとります。		
成績評価の方法	定期試験(90%)、平常点(10%)		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	国家試験にも出題される教科内容です。 用語の理解が出来るようにして下さい。 講義・実技を通して、理解を深められるようにして下さい。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法学科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	病理学	担当教官名	田中 直樹
対象学生	第2学年 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	病態生理の理解		
授業の概要及び到達目標	<p>臨床医学の現場で働く理学療法士にとって、疾患の理解は不可欠なものである。疾患を理解するにあたって、病態の理解が必要であり、その前提として正常の理解が必要となる。第1学年で解剖学・生理学等を履修し、正常を理解したと考える。次のステップとして病態を理解すべく、病理学を履修してもらう。時間数が少ないため、各論的な知識は各臨床医学科目に任せ、総論的な病態の理解を目指す。専門性にとらわれず、できる限り臨床に役立つ形での講義を行う。</p> <p><実務者>平成4年～平成11年京都市立医科大学脳血管系老化研究センター神経内科、平成11年～平成13年公立南丹病院神経内科、平成13年～平成14年国立舞鶴病院神経内科所属。平成14年～現在医療法人梁山会診療所理事長・院長。平成20年～現在京都医健専門学校理学療法科にて病理学・内科学・神経内科学を教えている。</p>		
講義計画・内容	<p>第1回障害者の自立とは 第2回病理学とは・細胞障害と細胞増殖 第3回組織・細胞の修復と再生 第4・5回循環障害 第6・7回炎症 第8・9・10回感染症 第11・12回免疫機構の異常 第13・14・15回腫瘍</p>		
準備学習	講義のスピードが速いため学習の定着を図るため予習・復習をしっかりと行うこと。		
教科書・教材等	「シンプル病理学(改訂第8版)」南江堂		
授業の形式、視聴覚機器の活用	スライド講義		
成績評価の方法	定期試験90%・平常点10%		
担当教官から(履修に当たっての留意点)	成績評価は試験および平常点で行うため、それに合格するべく各人で学習方法を検討すること。試験では国家試験レベルの知識を要求する。授業内容のみを学習するのではなく、国家試験の過去問を含め、幅広く学習するように。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	運動療法技術総論Ⅱ	担当教官名	東・稲原・南條・酒井
対象学生	第2学年 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	関節可動域訓練、ストレッチング、筋力増強運動		
授業の概要 及び到達目標	<p>運動療法概論で学んだ知識とともに、学生間での実技練習を通して各運動療法の基本的な技術を身につける。また、障害を有する対象者に対して、どのようにリスクを管理しながら効果的な運動療法を実施していくかを思考し模擬的に実施する。運動療法の原則や疾患の知識を復習しながら学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動療法に必要な解剖・運動・生理学の知識及び運動療法の原則について理解を深める。 2. 学生同士で各運動療法技術を実施することができる。 3. 各運動療法技術を障害のある対象者に実施する際の注意点(リスク)を理解できる。 <p>【実務者経験】2004～2017年まで整形外科の疾患を持つ患者を対象に運動学・臨床運動学に基づいたリハビリテーションを行っていた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動療法技術論・オリエンテーション 2. 運動療法を行う上で必要な基礎知識 3. 運動療法を行う上で必要な基礎知識 4. 運動療法を行う上で必要な基礎知識 5. 関節可動域運動・ストレッチング 6. 関節可動域運動・ストレッチング 7. 関節可動域運動・ストレッチング 8. 関節可動域運動・ストレッチング 9. 筋力増強運動 10. 筋力増強運動 11. 筋持久力運動 12. 筋持久力運動 13. 運動療法を行う上での知識の整理 14. 運動療法を行う上での知識の整理 15. 試験範囲説明、資料整理 		
準備学習	<p>運動療法概論で学習した運動療法の原則、特にROM〔練習・ストレッチング・筋力増強運動〕に関する理論について復習しておくこと。また、空き時間を利用して各自実技練習の復習を行うこと。</p>		
教科書・教材等	適宜、スライド資料配布		
授業の形式 教育機器の活用	講義・実技、骨模型・視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験(レポート課題・小テスト含)90% 平常点(出席率、授業態度等)10%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>実際の臨床場面、治療の中で求められる知識・技術になりますので、理論、技術を身に付けてもらいたいと考えています。講義内容を聞き逃さず、メモをとるように努力してください。</p>		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	老年学	担当教官名	堀井 秀樹
対象学生	第2学年 夜間部	履修学期	前期集中
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	健康寿命 サルコペニア フレイル リハ栄養		
授業の概要 及び到達目標	<p>日本は、2007年に超高齢社会へと突入し、今後も高齢者率は今後さらに高くなると予測されています。 理学療法においても、高齢者が対象者となる機会は非常に多いものとなっています。 したがって、効果的なリハビリテーションプログラムを提供するために、理学療法の対象となる疾病や障害の理解だけでなく、高齢者特有の状態を理解する事を目標にします。</p> <p>実務者経験:理学療法士としてクリニックや訪問リハビリ、高齢者施設にて高齢者の特性を考慮したリハビリテーションに従事していました。介護予防推進リーダー。地域包括ケア推進リーダー。</p>		
講義計画・内容	<p>第1回:老年学を学ぶべき背景、高齢者の特徴</p> <p>第2回:加齢に伴う変化</p> <p>第3回:フレイル、サルコペニア</p> <p>第4回:高齢者の運動機能評価、転倒予防</p> <p>第5回:リハビリと栄養</p> <p>第6回:高齢者の認知機能・口腔機能</p> <p>第7回:高齢者の筋力トレーニング ～プログラムを考えてみよう!～</p> <p>第8回:まとめ</p>		
準備学習	単位取得に必要な時間に自宅学習が含まれていますので、必ず復習を実施してください。		
教科書・教材等	授業時の配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義、グループワーク、その他視聴覚機器の利用		
成績評価の方法	定期試験80%、小テスト・レポート10%、平常点10%で評価し、総合60%以上を合格とする。		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	<p>今後皆さんが実習・臨床に携わる中で、高齢者の方々と関わる機会が必ずあると思います。 その際適切な知識を持った上で適切な理学療法が提供できるように、真摯に学習に取り組みましょう。</p>		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	日常生活活動論	担当教官名	金谷 由美
対象学生	第2学年 夜間部	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	日常生活活動 セルフケア QOL 日常生活活動の評価 車椅子・杖		
授業の概要 及び到達目標	<p>リハビリテーションにおいて、日常生活活動(ADL)は大きな領域を占めている。ADLの位置づけ、社会保障制度、バリアフリー、住宅改修の要点、福祉機器等、理学療法士の職域を理解し、急性期・回復期・維持期(生活期)でのADL評価ができるようになる。</p> <p>実務者経験：一般病床、地域包括ケア病床、訪問リハにて約5年理学療法士として勤務。入院患者と訪問リハビリ利用者に対してリハビリ業務に従事。主に、在宅に関わり、一人一人の社会的背景を踏まえつつ、QOLを維持した生活ができるよう、在宅生活の支援を行っていた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ADLの概念と範囲 基本的ADLと手段的ADL 2. ADLと障害 ICFとICIDH 3. ADLとQOL 4. ADL評価(BIとFIM) 5. ADL評価 FIMの詳細 6. BIとFIMの事例 7. さまざまな評価尺度 実際のADL評価 8. ADLを支援する機器(自助具・日常生活用具) 9. ADLを支援する機器(歩行補助具) 10. 杖の合わせ方 11. 身体寸法と車椅子寸法 12. ADL練習・指導の考え方 13. 事例集グループワーク 14. 国家試験対策 15. まとめ 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 片麻痺の疾患概要とADL評価 17. 片麻痺のADL指導法 18. 脊髄損傷疾患概要とADL評価 19. 脊髄損傷のADL指導法 20. 人工関節置換術(股関節)のADL評価と指導法 21. 人工関節置換術(膝関節)のADL評価と指導法 22. 下肢切断のADL評価と指導法 23. 関節リウマチのADL評価と指導法 24. 呼吸器・循環器疾患のADL評価と指導法 25. パーキンソン病のADL評価と指導法 26. 脊髄小脳変性症のADL評価と指導法 27. ALSのADL評価と指導法 28. ロービジョンのADL評価と指導法 29. 車椅子・杖の合わせ方、介助方法 30. まとめ 	
準備学習	基本的な知識の確認を今まで用いた教科書を用い、予習・復習を行ってください。		
教科書・教材等	標準理学療法学 専門分野 日常生活活動論・生活環境論 第5版		
授業の形式 教育機器の活用	講義、実技、グループワーク、視聴覚機器の利用		
成績評価の方法	筆記試験90%、平常点10%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	理学療法士が行う治療はすべて日常生活動作に結びついています。機能的な評価・分析だけでなく、それを日常生活に結び付けられるよう、日常生活活動の基礎を学びましょう。また、いろんな患者さんに対応できる応用力をつけましょう。知識の理解では国家試験を意識して学びましょう。実技に関しては学生同士で積極的にデモンストレーションを行ってください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	機能解剖学	担当教官名	牧 勝広 他
対象学生	第2学年 夜間部	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	解剖学 運動学 筋肉 靭帯 関節		
授業の概要 及び到達目標	<p>機能解剖学では、1年次に学習した解剖学・運動学の理解をさらに深め、どのような機能によって関節運動や動作が行われているかの知識を獲得していく。そのなかで、理学療法士として、股関節・膝関節・足関節・肩関節より遠位の上肢を中心とした関節へのアプローチ内容やその根拠について理解を深めていく。</p> <p>実務経験:回復期病院で主に脳血管障害に対しての理学療法に約3年間、高齢者施設で認知症を呈する対象者の在宅生活フォローに約8年間携わってきた。(牧)</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション・股関節の機能解剖① 2. 股関節の機能解剖② 3. 股関節の機能解剖③ 4. 膝関節の機能解剖① 5. 膝関節の機能解剖② 6. 膝関節の機能解剖③ 7. 足関節の機能解剖① 8. 足関節の機能解剖② 9. 中間テスト① 10. 肩関節の機能解剖① 11. 肩関節の機能解剖② 12. 肩関節の機能解剖③ 13. 肘、前腕、手指の機能解剖① 14. 肘、前腕、手指の機能解剖② 15. 中間テスト② 		
準備学習	基本的な知識の確認を今まで用いた教科書を用い、予習・復習を行ってください。		
教科書・教材等	筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版(医歯薬出版)		
授業の形式 教育機器の活用	座学		
成績評価の方法	定期試験70% 中間テスト2回(20%) 平常点(出席率)10%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	ROMexや筋カトレーニングなどを実施する上で必要な知識となります。予習復習を中心に理解を深め、知識の固定に努めて下さい。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法学科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	神経内科学	担 当 教 官 名	田中 直樹
対 象 学 生	第2学生 夜間部	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	臨床に役立つ神経疾患の理解		
授業の概要及び到達目標	<p>理学療法学科で履修する神経内科学は、リハビリテーション=「もとの習慣を取り戻す手段」という視点に立ち、神経疾患における病態生理学・症候学を基礎とし、各神経疾患を臨床に即した形で学習してもらう。神経内科専門医試験のレベルの講義を予定している。理学療法学科の学生にとっては非常に高いレベルと思うが、実際に理学療法士になって役立つ知識の獲得を目標に学習してもらう。</p> <p><実務者>平成4年～平成11年京都府立医科大学脳血管系老化研究センター神経内科、平成11年～平成13年公立南丹病院神経内科、平成13年～平成14年国立舞鶴病院神経内科所属。平成14年～現在医療法人梁山会診療所理事長・院長。平成20年～現在京都医健専門学校理学療法科にて病理学・内科学・神経内科学を教えている。</p>		
授業の概要	<p>第1回神経内科学的な診断方法・診察方法について 第2・3回錐体外路疾患 第4・5回脊髄小脳変性症 第6・7回運動ニューロン疾患 第8回脱髄疾患 第9回末梢神経障害 第10回神経筋接合部疾患 第11・12回筋疾患 第13・14回脳血管障害 第15回感染性疾患</p>		
準備学習	講義のスピードが速いため学習の定着を図るよう予習・復習をしっかりと行うこと。		
教科書・教材等	「臨床神経内科学(改訂6版)」南山堂・標準理学療法学神経内科学(第4版)		
授業の形式、教育機器の活用	スライド講義		
成績評価の方法	定期試験90% 平常点(出席率)10%		
担当教官から(履修に当たっての留意点)	スライド講義を行う。スライドを縮小したプリントを配布する。プリントの利用方法等、学習方法については各人に任せる。授業は臨床に役立つレベルで行うため、非常に高度な内容となる。成績評価は試験が中心となるため、それに合格するべく各人で学習方法を検討すること。試験では国家試験レベルの知識を要求する。授業内容のみを学習するのではなく、国家試験の過去問を含め、幅広く学習するように。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	運動生理学	担 当 教 官 名	酒井 祐子
対 象 学 生	第2学年 昼間部	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	運動と人体に生じる生理学的な影響、メカニズム。理学療法への応用。		
授業の概要 及び到達目標	<p>運動によりヒトの身体にどのような変化が生じるのか、その基本的メカニズムを学習する。さらに、自らの運動やスポーツに対する考え方を運動生理学的に再確認し、その必要性を理解した上で、効果的に運動・スポーツをおこなうための手段を学習する。その上で、理学療法士としての臨床の現場での応用を学ぶ。</p> <p>具体的には、運動が筋肉、骨、結合組織、呼吸・循環機能等に与える影響、運動と健康増進の関連について授業をすすめる。</p> <p>【実務者経験】2000～2015年スポーツ整形外科医とともに臨床、フィールドでの実地経験あり。</p>		
講義計画・内容	<p>第1回 運動生理学とは 第2回 筋収縮エネルギー供給系 第3回 筋線維の種類とその特徴 第4回 神経系の役割 第5回 筋の収縮様式と筋力 第6回 運動と循環 第7回 運動と呼吸 第8回 運動とホルモン 第9回 筋疲労の要因 第10回 運動と体温調節 第11回 栄養と運動 第12回 身体組織と肥満 第13回 トレーニング論 第14回 運動と生活習慣病 第15回 老化に伴う身体機能変化</p>		
準備学習	授業の最初に前回の小テストをするので、復習をして臨みましょう。		
教科書・教材等	<p>「入門生理学」第4版 編著 勝田 茂 杏林書院 参考文献はその都度紹介する 「運動とスポーツの生理学」北川 薫著 市村出版 「イラスト運動生理学」 朝山 正巳 東京教学社</p>		
授業の形式 教育機器の活用	<p>毎回①授業資料 ②確認問題を配布する。 授業終了時には配布された確認問題を提出する。 授業最初に前回の小テストを実施する。</p>		
成績評価の方法	<p>平常点 10点 期末試験 90点</p>		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	<p>ここで学ぶ知識は、健康増進を目的とした身体活動や、スポーツパフォーマンス向上のためのトレーニングを、科学的エビデンスに基づいて実践するために必要なものである。実際に現場に立った時、自分がたてた理学療法プランに対する効果判定の根拠や予測、あるいは現象の解釈につなげられるよう知識を身につけよう。</p>		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	臨床運動学	担当教官名	稲原 健輔
対象学生	第2学年 夜間部	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	バイオメカニクス・運動・動作・治療		
授業の概要 及び到達目標	<p>理学療法の基本である人体の運動について、臨床的な姿勢や動作の分析～治療ができるようになる。異常歩行等の特徴的な姿勢、動作から問題点につながる基本的な知識の活用(解剖学、運動学、生理学)ができるようになる。</p> <p>実務経験:1999年～2005年、肢体不自由児母子通園施設にて理学療法士として勤務し、障害児療育に関わり運動発達障害児に関わる。2001年12月～現在、訪問看護ステーションの業務にも従事。2009年～現在、大阪府門真市の教育委員会からの委託業務として市内の公立幼稚園・小学校・中学校の支援学級において障害児の相談業務に携わる。小児科クリニックでの発達障害児に対する外来理学療法や、一般の医療機関でもリハビリテーション科長として従事。2006年10月～京都医健専門学校で教員として従</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法評価とは 2. 関節モーメントの理解 3. 座位の動作関節と関節モーメントの関係① 4. 座位の動作関節と関節モーメントの関係② 5. カウンターウェイトとカウンターアクティビティ 6. 関節運動における支持性と可動性 7. 整形外科運動障害の動作観察 8. 臨床運動学:国家試験傾向と対策① 9. 臨床運動学:国家試験傾向と対策② 10. 片麻痺患者の動作観察 11. 整形外科疾患に対するアプローチ① 12. 整形外科疾患に対するアプローチ② 13. 片麻痺患者に対するアプローチ① 14. 片麻痺患者に対するアプローチ② 15. まとめ 		
準備学習	理学療法概論や運動学、評価学の知識が基礎となりますので、復習して授業に参加してください。		
教科書・教材等	15レクチャーシリーズ 臨床運動学・配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	座学 実技		
成績評価の方法	小テスト及び定期試験若しくはレポート課題90% 平常点(出席率)10%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	様々な異常動作に対し、問題点～治療アプローチが即座に考えられるような臨床推論能力を上げていきましょう。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	基礎医学セミナーⅡ	担当教官名	金谷 由美
対象学生	第2学年 夜間部	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	国家試験 専門基礎分野 運動器・神経系		
授業の概要 及び到達目標	<p>●国家試験合格に向けて、1年生で修了した科目が国家試験ではどのように出題されるかを理解し、その問題に適応できるようになる</p> <p>●到達目標としては、指定された分野で過去問が9割解答できるようになること、オリジナル問題が6割解答できるようになること</p> <p>実務者経験:一般病床、地域包括ケア病床、訪問リハにて約5年理学療法士として勤務。入院患者と訪問リハビリ利用者に対してリハビリ業務に従事。主に、在宅に関わり、一人一人の社会的背景を踏まえつつ、QOLを維持した生活ができるよう、在宅生活の支援を行っていた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション:国家試験とはどのように学習すればいいのか 2. 骨・関節・靭帯・筋分野の解説講義 3. 骨・関節・靭帯・筋分野のまとめ(グループワーク) 4. 骨・関節・靭帯・筋分野の小テスト 5. 上肢の運動学の解説講義 6. 上肢の運動学のまとめ 7. 下肢の運動学の解説講義 8. 下肢の運動学のまとめ 9. 顔面と体幹・姿勢・歩行の解説講義、まとめ 10. 運動学分野テスト 11. 神経基礎・末梢神経の解説講義 12. 中枢神経・感覚の解説講義 13. 神経系まとめ 14. 神経系小テスト 15. まとめ 		
準備学習	基本的な知識の確認を今まで用いた教科書を用い、予習・復習を行ってください。		
教科書・教材等	授業時の配布資料、国試の達人		
授業の形式 教育機器の活用	講義、グループワーク、その他視聴覚機器の利用		
成績評価の方法	定期試験90%、平常点(小テスト、課題提出を含む)10%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	理学療法士になるには国家試験合格が必須条件です。国家試験の内容をしっかり理解し、自分の学習傾向を知ることから始め、主体的に取り組んでください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	理学療法関連技術論Ⅱ	担当教官名	南條 千人
対象学生	第2学年 夜間部	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	理学療法の意義 原理 原則		
授業の概要 及び到達目標	<p>【授業の概要】 理学療法を実施していく上で必要となる基礎的な知識の活用と基礎的な技術を習得する事を目的に授業を行います。</p> <p>【実務者経験】 急性期、回復期病院にて外来・入院・訪問リハの利用者様に理学療法及びリハビリテーションを行いました。臨床では患者様・利用者様から学ぶ姿勢が大切だと考えています。</p>		
講義計画・内容	<p>1回目:オリエンテーション/カルテの記載/SOAP 2回目:理学療法プロセスについて 3回目:問診(コミュニケーション/情報収集)① 4回目:問診(コミュニケーション/情報収集)② 5回目:リハビリテーション評価/関連図について① 6回目:リハビリテーション評価/関連図について② 7回目:基本動作について① 8回目:基本動作について② 9回目:トランスファー/基本的動作介助法① 10回目:トランスファー/基本的動作介助法② 11回目:検査・測定の目的/意義について① 12回目:検査・測定の目的/意義について② 13回目:検査・測定の技術① 14回目:検査・測定の技術② /検査・測定結果の解釈① 15回目:検査・測定の技術③ /検査・測定結果の解釈②</p>		
準備学習	基本的な知識の確認を今まで用いた教科書を用い、予習・復習を行ってください。		
教科書・教材等	臨床理学療法評価法(アイペック) 配布資料・作成資料		
授業の形式 教育機器の活用	座学(講義)・実技		
成績評価の方法	レポート課題 90% 平常点(出席率)10%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	実習あるいは臨床場面で用いる知識について伝達をします。 事前学習、復習と行き、知識が定着できるようにして下さい。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	国際理学療法学	担当教官名	磯部 由美
対象学生	第2学年 夜間部	履修学期	後期
必修・選択の別	選択 必修	授業回数	8回
授業のキーワード	アメリカの理学療法 理学療法士協会国際事業課 国際的なキャリア グローバリゼーション		
授業の概要 及び到達目標	海外、特に先進国の理学療法を学び、日本との違いがわかる。また理学療法士のキャリアとして海外でどのような活躍があるのかを知り、今後の進路に活かす。世界は繋がっている事を実感する。【実務者経験】約20年、理学療法士として働いてきましたが、特に途上国で理学療法士として国際協力を行ってきました。フランスの組織で働き、様々な国の理学療法士と関わりました。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際理学療法学とは 2. 日本理学療法士協会とグローバリゼーション 3. 日本理学療法士協会とグローバリゼーション 4. 国際的な理学療法キャリア(海外研修、留学、医療輸出、青年海外協力隊等) 5. 国際的な理学療法キャリア(海外研修、留学、医療輸出、青年海外協力隊等) 6. 国際的な理学療法キャリア(海外研修、留学、医療輸出、青年海外協力隊等) 7. 国際的な理学療法キャリア(海外研修、留学、医療輸出、青年海外協力隊等) 8. まとめとグループワーク 		
準備学習	インターネットやテレビから、世界の保健医療分野のこと、文化などを知っておいてください。		
教科書・教材等	配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義 動画 グループワーク		
成績評価の方法	授業毎のレポート(90%) 出席率(10%)		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	この授業を通して、少しでも海外に興味を持ってください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	動作分析論	担当教官名	稲原 健輔
対象学生	第2学年 夜間部	履修学期	前期(集中講義)
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	姿勢観察・動作観察・動作分析		
授業の概要 及び到達目標	<p>動作分析論では、理学療法を実施していく上で必要となる基礎的な知識の活用と基礎的な技術を習得する事を目的に授業を行います。 理学療法での問題点抽出につながる動作観察から分析の展開、および問題点の仮説設定との関連性についての推論についても理解を高めます。 また、第三者への報告が行えるよう文章による表出についても経験します。</p> <p>実務経験：1999年～2005年、肢体不自由児母子通園施設にて理学療法士として勤務し、障害児療育に関わり運動発達障害児に関わる。2001年12月～現在、訪問看護ステーションの業務にも従事。2009年～現在、大阪府門真市の教育委員会からの委託業務として市内の公立幼稚園・小学校・中学校の支援学級において障害児の相談業務に携わる。小児科クリニックでの発達障害児に対する外来理学療法や、一般の医療機関でもリハビリテーション科長として従事。2006年10月～京都医健専門学校で教員として従事。</p>		
講義計画・内容	1回. 理学療法評価 2回. 文章作成の基本 3回. 医療用語の確認 4回. ランチョ・ロス・アミーゴ病院と歩行の理解① 5回. Kirsten Goetz-Neumann・Jacquelin Perry・Jessica Roseの歩行分類の理解② 6回. 動作観察 IC:正常～異常～治療(GW) 7回. 動作観察 LR:正常～異常～治療(GW) 8回. 動作観察 Mst:正常～異常～治療(GW) 9回. 動作観察 Tst:正常～異常～治療(GW) 10回. 動作観察 Psw:正常～異常～治療(GW) 11回. 動作観察 Isw:正常～異常～治療(GW) 13回. 動作観察 Msw:正常～異常～治療(GW) 14回. 前半まとめ:ケーススタディ① 15回. 前半まとめ:ケーススタディ②	16回:動作分析(歩行:バイオメカニクス)① 17回:動作分析(歩行:バイオメカニクス)② 18回:姿勢観察:立位 19回:姿勢観察:寝返り～起き上がり 20回:レポート記載:姿勢観察 21回:レポート記載:動作観察 22回:レポート記載:統合と解釈 23回:ケーススタディ① 24回:ケーススタディ② 25回:歩行:文献・抄読・抄録① 26回:歩行:文献抄読・抄録② 27回:国家試験問題から読み解く①(GW) 28回:国家試験問題から読み解く②(GW) 29回:国家試験問題から読み解く③(GW) 30回:後半まとめ	
準備学習	運動学・解剖学・生理学の知識が必要です。基礎的な内容はもちろん、毎回の授業内容を復習するようにしてください。		
教科書・教材等	臨床理学療法評価法 改訂版 アイペック・観察による歩行分析/医学書院・配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義・実技・グループワーク (主に実技室)		
成績評価の方法	レポート、確認テスト等90% 平常点10%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	理学療法評価で「姿勢・動作の観察・分析」は基本的であり重要な能力です。また、カルテやレポートに文章で表現したものを他者に伝えることも必要かつ重要な能力です。 自身の身体を通して、どのような姿勢・動作になっているかを感じると共に的確に文章で表現できるよう積極的に受講してください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	理学療法関連学Ⅱ	担当教官名	堀池 喜八郎、堀井 秀樹
対象学生	第2学年 夜間部	履修学期	後期集中
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	解剖学 生理学 運動学 関節 筋 神経		
授業の概要 及び到達目標	<p>解剖学・生理学・運動学。これらは理学療法士の基盤になる学問であるということは明白です。しかしながら、それぞれの学問の知識が独立しているために、患者様の全体像理解が深まらないという学生が散見されます。</p> <p>本講義では、1年次に履修している解剖学・生理学・運動学それぞれの知識を統合して理解することを目標にします。(堀井)</p>		
講義計画・内容	<p>第1回:オリエンテーション(堀井) 第2回:X線写真・CTIについて(堀井) 第3回:MRIについて(堀井) 第4回:正常画像の理解(堀井) 第5回:読影の実践①(堀井) 第6回:読影の実践②(堀井) 第7回:理学療法に必要な薬理学(堀池) 第8回:理学療法に必要な薬理学(堀池) 第9回:理学療法に必要な薬理学(堀池) 第10回:理学療法に必要な薬理学(堀池) 第11回:理学療法に必要な薬理学(堀池) 第12回:理学療法に必要な薬理学(堀池) 第13回:理学療法に必要な薬理学(堀池) 第14回:理学療法に必要な薬理学(堀池) 第15回:まとめ(堀井)</p>		
準備学習	単位取得に必要な時間に自宅学習が含まれていますので、必ず復習を実施してください。		
教科書・教材等	授業時の配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義、グループワーク、その他視聴覚機器の利用		
成績評価の方法	小テスト・レポート90%、平常点10%で評価し、総合60%以上を合格とする。		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	<p>実習や臨床現場で患者様と関わる中で、理解しておかなければならない基礎的な分野の学習になります。積極的に授業に参加して自らの能力を向上させてください。</p>		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	地域包括ケアシステム論	担当教官名	森田 卓麻
対象学生	第2学年 夜間部	履修学期	集中
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	ケアシステム、サービス、多職種連携		
授業の概要 及び到達目標	<p>高齢化の進展および構造の変化を踏まえ、これからのケアシステムを導く概念として「地域包括ケアシステム」という言葉が用いられるようになっていきます。介護保険と同時に、これに関連する医療、福祉、住宅等との他分野制度の連携および協働を地域基盤に展開するという概念です。授業を通して、概念の内容やシステムの役割や課題を知ってもらいたいと考えています。</p> <p>[実務経験]一般病床、地域包括ケア病床、訪問リハ、通所リハにて約7年理学療法士として勤務。主に、地域に根差した医療に関わり、地域全体でQOLを維持した生活ができるように地域の活性化に努めた。</p>		
講義計画・内容	<p>1回目 オリエンテーション・地域包括ケアシステムとは 2回目 地域包括ケアシステムへの道 3回目 地域包括ケアのスタートと展開 4回目 地域包括ケアを創る 5回目 地域包括ケア最前線 6回目 ターミナルケア・認知症・生活困窮者と包括的支援 7回目 在宅医療・訪問看護・小規模多機能拠点 8回目 地域包括支援センター・地域事例紹介 / 試験解説</p>		
準備学習	事前に資料を配布しますので目を通したり、気になるキーワードは調べてみてください。		
教科書・教材等	地域包括ケアシステム論(oohm社) 厚生労働白書・配布資料・作成資料		
授業の形式 教育機器の活用	主に講義形式、積極的にグループディスカッションを行います。		
成績評価の方法	平常点、レポート課題		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	地域包括ケアを構成する諸サービスや役割を知ることは重要です。興味を持って、しっかり学習していきましょう。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野		
授業科目名	義肢・装具学	担当 教 官 名	小嶋 功		
対 象 学 生	第3学年 夜間部	履 修 学 期	通年		
必修・選択の別	必修	授業回数	30回		
授業のキーワード	義肢装具、バイオメカニクス、適応				
授業の概要 及び到達目標	<p>【装具学】 「義肢装具学」を履修することで、保健・医療・福祉の現場および地域社会での課題を解決し、チーム医療や総合的福祉、地域社会開発の担い手となるよう、身体・精神、社会生活を包括的に理解した上でリハビリテーションを具体的に実践する能力を養い、業学的な知識・技能・態度を修得する。・装具は、四肢体幹の機能障害の軽減を目的として使用する補助器具である。装具の使用目的は、変形・拘縮の予防、体重の支持、不随意運動のコントロール、失われた機能の代償等である。</p> <p>【義肢学】 義足の基本的な特性を学修して、「なぜ、義足で歩けるのか?」について、義足ソケット、アライメント、継手部品、歩行練習(学習)の側面から理解する。 ・最適な装具の適応を図るために、装具の種類、分類、構造、対象者の病態や障害像を把握し、バイオメカニクスの視点から説明することができるようになることを目標とする。 ・対象者の失われた機能を義肢装具によってどのように補完するかを説明することができる。 ・義肢装具の種類・分類、適応(合)、適応、製作上の特徴、使用方法等について説明することができる。</p> <p>【実務者経験】この科目の担当者は、総合リハビリテーションセンターおよび急性期・回復期病院、訪問リハに携わって30年の経験がある実務経験のある教員であることから、臨床的視点に基づいた内容と課題について、より詳細な理解に結びつけることができる。</p>				
講義計画・内容	<p>講義を中心に実施するが、内容に応じて、グループワークの時間を設ける。 補装具の使われたかをイメージしやすくするために動画をできるだけ使用する。 国家試験問題についても触れ、理解すべきポイントについて解説をおこなう。</p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>(前期)</p> <p>1回目 装具総論</p> <p>2回目 歩行の運動学(1)</p> <p>3回目 歩行の運動学(2)</p> <p>4回目 装具の基本特性に関すること</p> <p>5回目 下肢装具</p> <p>6回目 下肢装具</p> <p>7回目 下肢切断者のリハビリテーション</p> <p>8回目 切断術と断端管理方法</p> <p>9回目 義足膝継手</p> <p>10回目 義足足部</p> <p>11回目 半側骨盤切除、股関節離断</p> <p>12回目 膝関節離断</p> <p>13回目 サイム切断、足部切断</p> <p>14回目 理学療法評価 (講義)</p> <p>15回目 まとめ</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>(後期)</p> <p>1回目 歩行下肢装具:骨盤帯付長下肢</p> <p>2回目 歩行下肢装具:股装具装具</p> <p>3回目 歩行下肢装具:長下肢装具・膝装具</p> <p>4回目 下肢装具(1):短下肢装具</p> <p>5回目 下肢装具(2):インソール・靴型装具</p> <p>6回目 下肢装具(3):体幹装具・上肢装具</p> <p>7回目 歩行補助具</p> <p>8回目 車いす</p> <p>9回目 大腿切断と大腿義足</p> <p>10回目 下腿切断と下腿義足</p> <p>11回目 理学療法評価 (実習)</p> <p>12回目 理学療法プログラム</p> <p>13回目 義足歩行練習</p> <p>14回目 異常歩行</p> <p>15回目 まとめ</p> </td> </tr> </table>			<p>(前期)</p> <p>1回目 装具総論</p> <p>2回目 歩行の運動学(1)</p> <p>3回目 歩行の運動学(2)</p> <p>4回目 装具の基本特性に関すること</p> <p>5回目 下肢装具</p> <p>6回目 下肢装具</p> <p>7回目 下肢切断者のリハビリテーション</p> <p>8回目 切断術と断端管理方法</p> <p>9回目 義足膝継手</p> <p>10回目 義足足部</p> <p>11回目 半側骨盤切除、股関節離断</p> <p>12回目 膝関節離断</p> <p>13回目 サイム切断、足部切断</p> <p>14回目 理学療法評価 (講義)</p> <p>15回目 まとめ</p>	<p>(後期)</p> <p>1回目 歩行下肢装具:骨盤帯付長下肢</p> <p>2回目 歩行下肢装具:股装具装具</p> <p>3回目 歩行下肢装具:長下肢装具・膝装具</p> <p>4回目 下肢装具(1):短下肢装具</p> <p>5回目 下肢装具(2):インソール・靴型装具</p> <p>6回目 下肢装具(3):体幹装具・上肢装具</p> <p>7回目 歩行補助具</p> <p>8回目 車いす</p> <p>9回目 大腿切断と大腿義足</p> <p>10回目 下腿切断と下腿義足</p> <p>11回目 理学療法評価 (実習)</p> <p>12回目 理学療法プログラム</p> <p>13回目 義足歩行練習</p> <p>14回目 異常歩行</p> <p>15回目 まとめ</p>
<p>(前期)</p> <p>1回目 装具総論</p> <p>2回目 歩行の運動学(1)</p> <p>3回目 歩行の運動学(2)</p> <p>4回目 装具の基本特性に関すること</p> <p>5回目 下肢装具</p> <p>6回目 下肢装具</p> <p>7回目 下肢切断者のリハビリテーション</p> <p>8回目 切断術と断端管理方法</p> <p>9回目 義足膝継手</p> <p>10回目 義足足部</p> <p>11回目 半側骨盤切除、股関節離断</p> <p>12回目 膝関節離断</p> <p>13回目 サイム切断、足部切断</p> <p>14回目 理学療法評価 (講義)</p> <p>15回目 まとめ</p>	<p>(後期)</p> <p>1回目 歩行下肢装具:骨盤帯付長下肢</p> <p>2回目 歩行下肢装具:股装具装具</p> <p>3回目 歩行下肢装具:長下肢装具・膝装具</p> <p>4回目 下肢装具(1):短下肢装具</p> <p>5回目 下肢装具(2):インソール・靴型装具</p> <p>6回目 下肢装具(3):体幹装具・上肢装具</p> <p>7回目 歩行補助具</p> <p>8回目 車いす</p> <p>9回目 大腿切断と大腿義足</p> <p>10回目 下腿切断と下腿義足</p> <p>11回目 理学療法評価 (実習)</p> <p>12回目 理学療法プログラム</p> <p>13回目 義足歩行練習</p> <p>14回目 異常歩行</p> <p>15回目 まとめ</p>				
準備学習	授業項目に沿ったテキストを使用するため、予め各章の学習ポイント・到達目標について目を通しておくことが望ましい。				
教科書・教材等	<p>【使用テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石川 朗、編:『15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 装具学』中山書店、2011年 ・石川 朗、編:『15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 義肢学』中山書店、2011年 <p>【参考図書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 澤村誠志、切断と義肢(第2版)、医歯薬出版、2016年 2) 日本義肢装具学会(監修)、澤村誠志、他(編)、義肢学(第3版)、医歯薬出版、2015年 3) 日本整形外科学会 / 日本リハビリテーション医学会(監修)、義肢装具のチェックポイント(第8版)、医学書院、2014年 				
授業の形式 教育機器の活用	装具に関する具体的なイメージを高めるために、動画の活用や短下肢装具における足継手軸の調整実習をおこない、床反力による力のコントロールについて演習授業をおこなう。				
成績評価の方法	定期試験を実施する(90%)。国家試験レベルの選択肢問題(40~50問)。平常点(10%)				
担当教官から (履修に当たっての留意点)	履修範囲が広いことから、配布資料ならびに使用テキストの復習を実施すること。授業中におこなう国家試験例題に基づいた復習をおこなうことが望ましい。				

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	理学療法評価学Ⅲ	担当教官名	牧 勝広
対象学生	第3学年 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	神経系の評価		
授業の概要 及び到達目標	<p>評価学のまとめとして、神経系機能の評価学全般(方法論とそれに関連する解剖・生理学、病態の知識)を学習する。 この授業での到達目標は神経系の評価方法論が理解でき、健常者で安全に評価実技ができる事とする。</p> <p>実務経験:回復期病院で主に脳血管障害に対しての理学療法に約3年間、高齢者施設で認知症を呈する対象者の在宅生活フォローに約8年間携わってきた。(牧)</p>		
講義計画・内容	<p>1、2回目:オリエンテーション、筋緊張の診方 3、4回目:運動麻痺の診方 5~8回目:感覚の診方 9、10回目:疼痛の診方 11~14回目:脳神経の診方 15~18回目:反射の診方 19、20回目:運動失調の診方 21、22回目:バランスの診方 23~26回目:高次脳機能の診方 27~30回目:実技テスト及びフィードバック</p>		
準備学習	神経系の解剖、機能については既に履修済みである事を踏まえ、その範囲は理解しているものとして授業を進めます。		
教科書・教材等	理学療法評価法 第3版(神陵文庫)、改訂18版 ベッドサイドの神経のみかた(南山堂)		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式、テキスト及び配布資料、その他視聴覚機器の利用		
成績評価の方法	実技テスト50%、学期末ペーパーテスト40%、平常点10%で評価し、総合60%以上を合格とする。		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	神経系評価学方法論等を中心に講義します。関連分野の解剖学、生理学の解説は最小限に留めます。従って該当分野の解剖学、生理学に関しては1年生で学習した内容を予習しておくこと。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	基礎医学セミナーⅢ	担当教官名	東 隆史
対象学生	第3学年 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	国家試験 解剖・生理 循環器 呼吸器 消化器 泌尿器 代謝		
授業の概要 及び到達目標	<p>国家試験の重点内容、学生にとって難解な部分を中心に解説していきます。学習の定着向上を図るためグループワークや反転授業などの能動的学習を導入する。本授業を履修する学生においてはその趣旨を理解して能動的な学習に努めてほしい。本授業を通して、該当分野の過去問題を解けるようになる。</p> <p>担当教員は2005年に理学療法士資格取得後、身体障がい者施設をベースにクリニック(整形外科、内科)、老人保健施設、通所リハビリ、通所介護などで実務を行う。</p>		
講義計画・内容	<p>1回目: 授業オリエンテーション、国家試験の概要、国家試験に向けての学習方法 2回目: 呼吸器の解剖・生理・運動の講義 3回目: 呼吸器疾患の講義 4回目: 呼吸器に関する補足授業と自己学習 5回目: 呼吸器に関する過去問を用いたGW 6回目: 循環器の解剖・生理の講義 7回目: 循環器疾患の講義 8回目: 循環器に関する補足授業と自己学習 9回目: 循環器に関する過去問を用いたGW 10回目: 小テストと振り返り 11回目: 消化器・泌尿器・代謝・発生の解剖・生理の講義 12回目: 代謝疾患の講義 13回目: 消化器・泌尿器・代謝・発生の補足授業と自己学習 14回目: 小テスト 15回目: 総まとめ</p>		
準備学習	<p>復習中心に行ってください。ノートまとめ、過去問を解くことを徹底してください。単位取得に必要な時間に自宅学習が含まれていますので必ず復習を実施してください。</p>		
教科書・教材等	資料配布		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	試験80% 小テスト10% 平常点10%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	<p>国家試験の傾向に沿って重点項目を理解してもらうよう講義します。この学習は国家試験に直接関係する科目であるとともに、解剖生理の復習にもなります。今後専門分野の学習に向けての最後の復習機会となりますので自主的に学ぶよう心掛けてください。</p>		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	小児科学	担当教官名	粟屋 智就
対象学生	第3学年 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード			
授業の概要 及び到達目標	<p>【概要】 15回の講義を通して、小児科学を広く学ぶ。特に脳、神経、筋肉の疾患を重点的に説明する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児の年齢ごとの生理、発達を理解する ・小児特有の疾患・病態・治療を学ぶ <p>【実務者経験】2003年より大学病院小児科に勤務し、小児の発達、脳・神経・筋疾患を専門とする。2016年より発生・解剖学教室に異動、小児の遺伝性疾患の基礎研究と大学院生への研究指導、医学部学生への解剖学実習を担当している。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児科学総論 2. 正常発達について 3. 小児神経診察法1 4. 小児神経診察法2 5. 遺伝とは(総論) 6. 遺伝とは(各論) 7. 新生児の病気 8. 小児の感染症 9. てんかん(総論) 10. てんかん(各論) 11. 神経発達症(発達障害) 12. 小児の運動器疾患1 13. 小児の運動器疾患2 14. 最終講義1(まとめ) 15. 最終講義2(まとめ) 		
準備学習	授業で説明した内容から定期試験を作成するので、講義内容の復習を行うこと。		
教科書・教材等	標準理学療法学・作業療法学 小児科学 第5版 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験(前期・後期各1回)80% 平常点(出席率、小テストの点等)20%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	小児は成人と様々な点で異なっており、年齢ごとに特有の症状・病態を呈します。小児への発達支援は近年非常にニーズの高い分野です。また、小児期の疾患を持った成人の患者さんを担当する機会は必ずあると思います。小児科学を学ぶことが、みなさんの将来の役に立つよう、また小児理学療法に興味をもってもらえるよう、内容を考えたいと思います。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	理学療法技術論 (脊髄障害)	担当教官名	磯部 由美
対象学生	第3学年 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	脊髄損傷の症状 理学療法 ADL 車椅子 不全麻痺		
授業の概要 及び到達目標	<p>脊髄損傷や脊髄障害は理学療法士がよく関わる疾患です。以前に比べ、完全麻痺の脊髄損傷患者さんは減少していますが、高齢化に伴い不全麻痺の患者さんは増えています。脊髄障害・損傷の病態を理解し、理学療法を行う実践的な部分と国家試験に対応できるよう授業を進めます。本授業では下記の到達目標を設定しています。</p> <p>①脊髄障害の病態を理解し、理学療法を実施できる ②脊髄損傷患者に必要な車椅子について説明できる ③国家試験問題に対応できる</p> <p>【実務者経験】 理学療法士になって20年のうち、約5年間、リハビリテーションセンターやパキスタンで脊髄損傷患者さんの理学療法を行いました。</p>		
講義計画・内容	<p>①脊髄障害の現状、病態と合併症 ②急性期管理 ③理学療法評価 ④理学療法 ⑤基本動作・車椅子選定・車椅子動作 ⑥呼吸理学療法・歩行練習・環境調整 ⑦不全脊髄損傷の理学療法 ⑧不全脊髄損傷の理学療法</p> <p>※授業の中で国家試験問題も解くことで、理解を深め国家試験対策を行います</p>		
準備学習	脊髄についての解剖学・生理学の復習		
教科書・教材等	脊髄損傷理学療法マニュアル 第3版 文光堂 / 国家試験過去問題		
授業の形式 教育機器の活用	講義 実技 動画		
成績評価の方法	筆記試験90% 出席点10%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	脊髄損傷患者さんを担当した時に必要な知識・実技を行います。イメージが難しいかと思しますので、動画を使いながら、かつ積極的に自分で体験してみてください。脊髄損傷の病態のみならず、生活や心理面を考慮し「人」として患者さんを診れるようになってください。		

2023年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	理学療法技術論 (骨関節障害)	担当教官名	谷口匡史, 他
対象学生	第3学年 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	運動器の構造と機能 バイオメカニクス 可動域制限 筋力低下		
授業の概要 及び到達目標	<p>運動学は、理学療法を展開するうえで必須の基礎知識であり、それらの情報をもとに理学療法技術についての理解を深める必要がある。本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①運動に関する身体の構造と機能の関係を理解し、説明できる。 ②運動学、運動力学等の諸理論を理解・応用し、関節運動について説明できる。 ③運動学の知識を利用し、可動域制限や筋力低下の要因を説明できる。</p> <p>【実務者経験】科目担当者は、長年に亘り、大学病院での診療経験がある教員であり、臨床的視点に基づいた内容について教授する。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動学の基礎知識① 2. 運動学の基礎知識② 3. 運動学の基礎知識③ 4. 関節運動学の基礎知識① 5. 関節運動学の基礎知識② 6. 関節可動域の評価 7. 筋および関節の触診① 8. 筋および関節の触診② 9. ROM制限因子に対する運動療法① 10. ROM制限因子に対する運動療法② 11. 筋力低下に対する運動療法① 12. 筋力低下に対する運動療法② 13. 筋力低下に対する運動療法の実際① 14. 筋力低下に対する運動療法の実際② 15. 運動器疾患に対する運動療法の実際 		
準備学習	解剖学で学ぶ運動器の内容は理解しておく。 特に主要な筋の起始・停止・神経支配は復習しておく。		
教科書・教材等	運動療法学 障害別アプローチの理論と実際(第2版)		
授業の形式 教育機器の活用	講義 演習 骨模型・視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験80% 平常点(出席率等)20%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	運動障害を理解するうえで運動学の知識は欠かせません。本講義では国家試験に対応するための知識だけでなく、なるべく臨床に役立つ知識もお話したいと考えています。臨床をイメージして授業に積極的に取り組んで下さい。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	理学療法技術論 (神経筋疾患・がん)	担 当 教 官 名	今井 伸也・二宮 弘樹・東隆史
対 象 学 生	第3学年 夜間部	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	糖尿病の概要とリスク、がん、がんのリハビリテーション、種々の難病と理学療法		
授業の概要 及び到達目標	<p>「代謝と運動」に関する生理学・生化学的な基本知識を整理し、代表的な代謝障害である糖尿病の病態およびその基本治療を学ぶ。 癌のリハビリテーションについては、近年のがん患者に対する関りを学びながら、その病態と基本的治療について学ぶ。 種々の神経筋疾患や難病のなかから代表的なものをピックアップし、その病態と理学療法について学ぶ。また、合わせて国家試験対策も行っていく。 実務者経験:生活期、回復期病院にて外来・入院・訪問・老健の患者様・利用者様に理学療法及びリハビリテーションを行いました。臨床では患者様・利用者様から学ぶ姿勢が大切だと考えています。</p>		
講義計画・内容	第1回 「科目オリエンテーション」「代謝障害理学療法総論」 第2回 「代謝疾患総論と糖尿病理学療法」 第3回 「糖尿病合併症」 第4回 「糖尿病管理」 第5回 「糖尿病の理学療法」 第6回 「難病・神経筋疾患総論」 第7回 パーキンソン病の病態と理学療法(1) 第8回 パーキンソン病の病態と理学療法(2) 第9回 がんのリハビリテーション(1) 第10回 がんのリハビリテーション(2) 第11回 髄小脳変性症の病態と理学療法と国家試験対策 第12回 多発性硬化症／筋萎縮性側索硬化症／その他神経疾患の病態と理学療法 第13回 その他の神経筋疾患の病態と理学療法、国家試験対策、他 第14回 その他の神経筋疾患の病態と理学療法、国家試験対策、他 第15回 まとめ		
準備学習	病態理解、臨床像の理解には基本的な生理学的知識や解剖学的知識が欠かせません。テキストをよく読み、理解に努めて臨んでください。		
教科書・教材等	臨床神経内科学、別途配布する講義資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義中心、その他視聴覚機器の利用		
成績評価の方法	小テスト 定期試験(90%) 平常点(10%)		
担当教官から (履修に当たって の留意点)	運動器障害や脳血管障害と同様に理学療法士が対処する主要な障害として関心をもって授業に臨んでください。これまでの基礎的知識の理解が必要となります。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	地域理学療法学	担当教官名	森田 卓麻
対象学生	第3学年 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	リハビリテーション 地域理学療法 介護保険 地域包括ケアシステム		
授業の概要 及び到達目標	<p>地域包括システムにおける理学療法士の役割を理解し、地域で生活している障害者・高齢者の自立支援に向けて、理学療法士の立場から支援していくための知識、技術、また他職種との連携などを学ぶ。 地域包括ケアシステム推進を背景に、理学療法士の職域や取り巻く制度などについて理解することで、具体的な職業像を理解する。</p> <p>実務者経験:[実務経験]一般病床、地域包括ケア病床、訪問リハ、通所リハにて約7年理学療法士として勤務。入院患者と訪問リハビリ利用者に対してリハビリ業務に従事。主に、地域に根差した医療に関わり、一人一人の社会的背景を踏まえつつ、地域全体でQOLを維持した生活ができるようリハビリを行い、地域の活性化に努めた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> ①地域リハビリテーションとは ②多職種連携(グループワーク) ③介護保険制度について ④介護保険制度についてpart2 ⑤地域包括ケアシステム ⑥要介護認定 ⑦要介護認定part2 ⑧介護保険下での理学療法(グループワーク) ⑨介護保険下での理学療法(講義) ⑩在宅医療に関わる知識 ⑪福祉用具の選定 ⑫健康増進への取り組み ⑬終末期リハビリテーション(講義) ⑭終末期リハビリテーションpart2(グループワーク) ⑮まとめ 		
準備学習	法律関連の事が授業でよく出てきます。授業を受ける前に事前に調べていただければ理解が進むと思います。		
教科書・教材等	最新理学療法学講座 地域理学療法学、配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習・グループワーク		
成績評価の方法	定期試験90%、授業態度10%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	地域とは何か？理学療法士の働く職場として病院以外の職場も増えてきています。地域で働く理学療法士の職場としてどんなところがあり、どのような役割があるのか？また、地域で生活する高齢者、障害者の現実を理解していくことも大切なこととなります。病気を発症して在宅生活を送るまでの流れを理解していきましょう。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	理学療法技術論 (障害予防・疾病予防)	担当教官名	南條 千人
対象学生	第3学年 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	高齢者、ライフスタイル、心身機能		
授業の概要 及び到達目標	<p>高齢化の進展および構造の変化を踏まえ、生活習慣病の予防、社会生活を営むために必要な機能の維持および向上等により健康寿命の延伸が重要であります。</p> <p>この授業を通して予防の重要性を学んで下さい。また子どもから高齢者に至るまでのライフスタイルにおいて、心身機能の維持および向上に繋がる必要性を学んで下さい。さらに本授業を通して、課題をまとめて発表する力を高めて下さい。</p> <p>実務者経験: 地域の方々に向けて開催される体力測定会や体操教室に参加し、健康に対して意識してもらえるような活動をしています。</p>		
講義計画・内容	<p>1回目 ライフスタイルとは/ヘルスプロモーションとは</p> <p>2回目 老化の特徴、小児の特徴、高齢者の虚弱</p> <p>3回目 高齢者の評価①</p> <p>4回目 高齢者の身体機能評価 I・II・III</p> <p>5回目 高齢者の認知機能、精神・心理機能およびQOLの評価</p> <p>6回目 ヘルスプロモーションの実践 虚弱予防・転倒予防</p> <p>7回目 ヘルスプロモーションの実践 生活習慣病予防・改善</p> <p>8回目 行動科学とヘルスプロモーション/介護予防について 試験解説</p>		
準備学習	資料もありますので事前に目を通したり、気になるキーワードは調べてみて下さい。		
教科書・教材等	予防理学療法学要論、配布資料・作成資料		
授業の形式 教育機器の活用	主に講義形式、積極的にグループディスカッションを行います。		
成績評価の方法	レポート(90%)、平常点(10%)		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	<p>障害予防・疾病予防に関するリハビリテーションは、その重要性がますます拡大する分野です。</p> <p>今後、この分野に携わる理学療法士もさらに多くなると考えます。</p> <p>興味を持って、しっかり学習していきましょう。</p>		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	理学療法技術論 (脳血管障害)	担 当 教 官 名	(前期)高橋 慎太郎、田後 裕之 (後期)牧 勝広
対象学生	第3学生 夜間部	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授 業 回 数	30回
授業のキーワード	脳血管障害、評価、理学療法		
授業の概要 及び到達目標	<p>臨床でみる頻度の高い脳血管障害に対する理学療法プロセス全般を学習します。 この授業では以下に挙げる項目を到達目標とします。</p> <p>① 脳血管障害に対する評価の目的とそのプロセスが説明できる。 ② 脳血管障害の病態、症状をリスクを含め説明できる。 ③ 急性期、回復期、維持・生活期における理学療法の目的、内容をそれぞれ説明できる。</p> <p>実務経験:急性期で12年従事、脳卒中認定理学療法士取得、2020年4月号理学療法ジャーナル「脳幹病変へのアプローチ」一部執筆(高橋)</p> <p>回復期病院で約3年間、生活期施設で約8年間主に脳卒中に対する回復期、生活期理学療法に携わってきた。(牧)</p>		
講義計画・内容	<p>(前期)</p> <p>1、2回目:授業オリエンテーション、脳血管障害のリハビリテーション総論(高橋担当)</p> <p>3、4回目:脳血管障害リハビリテーション概論(高橋担当)</p> <p>5、6回目:脳卒中に対するリハビリテーション医療(高橋担当)</p> <p>7、8回目:下肢装具について(高橋担当)</p> <p>9、10回目:ロボットリハビリテーションについて(高橋担当)</p> <p>11回目:片麻痺患者の介助練習・装具・リハ機器の活用(高橋担当)</p> <p>12~15回目:住宅改修・福祉用具、脳血管障害に対する介助のコツについて(田後担当)</p>	<p>(後期)</p> <p>1~4回目:授業オリエンテーション、脳卒中の障害総論</p> <p>5回目:意識障害に対する理学療法</p> <p>6回目:運動麻痺に対する理学療法</p> <p>7回目:感覚障害に対する理学療法</p> <p>8回目:異常筋緊張に対する理学療法</p> <p>9回目:運動失調に対する理学療法</p> <p>10回目:高次脳機能障害に対する理学療法</p> <p>11回目:痛み、二次的機能障害に対する理学療法</p> <p>12回目:姿勢定位障害に対する理学療法</p> <p>13回目:姿勢バランス障害に対する理学療法</p> <p>14回目:起居動作障害、歩行障害に対する理学療法</p> <p>15回目:まとめ</p>	
準備学習	脳の機能、解剖については1年生の解剖学、生理学の内容をある程度理解しているものとして授業を進めます。		
教科書・教材等	標準理学療法学専門分野神経理学療法学、別途配布する講義資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義中心、その他視聴覚機器の利用		
成績評価の方法	学期末ペーパーテスト90%、平常点10%で評価し、総合60%以上を合格とする。		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	前述の通り、この分野は臨床で頻繁に遭遇する疾患に対する理学療法過程を学習します。理学療法プロセスを学ぶ上でも脳の解剖と機能の理解は必須となります。適宜予習、復習をしながら授業に臨んで下さい。 国家試験でも高い割合で出題される分野です。随時過去問等も交えて授業を行います。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	理学療法技術論(小児科)	担当教官名	稲原 健輔
対象学生	第3学年 夜間部	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	小児理学療法の評価、治療		
授業の概要 及び到達目標	<p>正常発達の理解と復習を行い、脳性麻痺、小児の整形疾患、遺伝性疾患等について病態が理解できる。また、各疾患の評価、リハビリテーションについて理解する。</p> <p>実務経験:1999年～2005年、肢体不自由児母子通園施設にて理学療法士として勤務し、障害児療育に関わり運動発達障害児に関わる。2001年12月～現在、訪問看護ステーションの業務として在宅での小児患者へ理学療法を提供。2009年～現在、大阪府門真市の教育委員会からの委託業務として市内の公立幼稚園・小学校・中学校の支援学級において障害児の相談業務に携わる。2012年4月～2015年3月小児科クリニックにて発達障害児に対する外来理学療法に従事。</p>		
講義計画・内容	<p>1回目:オリエンテーション 2回目:人間発達の復習と小児理学療法総論 3回目:小児理学療法総論2 4回目:脳性麻痺総論1 5回目:脳性麻痺総論2 6回目:痙直型両麻痺について 7回目:片麻痺について 8回目:アトーゼ型について 9回目:痙直型四肢麻痺について 10回目:脳性麻痺まとめ 11回目:小児の整形疾患について 12回目:染色体異常について 13回目:筋ジストロフィーについて 14回目:発達障害児への関わりについて 15回目:まとめ</p>		
準備学習	<p>人間発達学の内容が基礎になるので復習して授業に臨んでください。 また、各疾患については小児科、整形外科、神経内科、臨床心理、技師装具と連動しています。それぞれの内容も復習しながらつながりを意識して学習してください。</p>		
教科書・教材等	小児理学療法学テキスト/南江堂		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験および講義内ワーク90%、平常点10%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>人間発達学で学んだ内容を基礎として、小児疾患でどのような障害が生じるのかを理解します。理学療法で必要となる評価や療育的な観点も学んでもらいます。国家試験でも必要な情報です。 整形外科や神経内科等とも横断的に知識を学ぶ必要がありますので、復習と関連性についても意識して学習してください。</p>		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法学科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	精神医学	担 当 教 官 名	田中直樹
対 象 学 生	第3学年 夜間部	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15コマ
授業のキーワード	臨床に役立つ精神疾患の理解		
授業の目標及び期待される学習効果	<p>理学療法学科で履修する精神学は、精神疾患の症候学を基礎とし、その特徴を理解し、各精神疾患を臨床に即した形で学習してもらう。基本的な疾患ならびに臨床の場でよく遭遇する疾患を中心に学習し、実際に理学療法士になって役立つ知識の獲得を目指す。</p> <p><実務者>平成4年～平成11年京都府立医科大学脳血管系老化研究センター神経内科、平成11年～平成13年公立南丹病院神経内科、平成13年～平成14年国立舞鶴病院神経内科所属。平成14年～現在医療法人梁山会診療所理事長・院長。平成20年～現在京都医健専門学校理学療法科にて病理学・内科学・神経内科学を教えている。</p>		
授業の概要	<p>第1回精神医学とは 第2回精神障害の成因と分類 第3・4回認知症 第5回てんかん 第6・7・8回精神作用物質による精神および行動の障害 第9・10・11回統合失調症およびその関連障害 第12・13回気分障害 第14・15回神経症性障害</p>		
準備学習	講義のスピードが速いため学習の定着を図るよう予習・復習をしっかりと行うこと。		
教科書・教材等	「標準理学療法学・作業療法学精神医学(第4版)」医学書院		
授業の形式、視聴覚機器の活用	スライド講義		
成績評価の方法	定期試験90%+平常点(出席率)10%		
担当教官から(履修に当たっての留意点)	スライド講義を行う。成績評価は試験のみで行うため、それに合格するべく各人で学習方法を検討すること。試験では国家試験レベルの知識を要求する。授業内容のみを学習するのではなく、国家試験の過去問を含め、幅広く学習するように。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	理学療法技術論 (内部障害)	担当教官名	洪川武志・木下 幸 酒井祐子・金谷由美, 他
対象学生	第3学年 夜間部	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	呼吸器・循環器疾患の病態理解 評価とリスク管理 理学療法		
授業の概要 及び到達目標	<p>【循環器疾患の理学療法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器疾患の病態について説明できる。 2. 循環器疾患患者に対する評価や不整脈, リスク管理について説明できる。 3. 心臓リハビリテーション(特に運動療法)について説明できる。 <p>【呼吸器疾患の理学療法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 呼吸器系の障害を有する患者に理学療法を行う上でリスク管理ができる。 5. 呼吸器系の障害が運動を制限するメカニズムを説明できる。 6. 呼吸器系の障害を有する患者の各病期の理学療法について説明できる。 <p>【実務者経験】平岩・洪川両氏は、大学病院にて、和田氏はの地域の中核病院においてそれぞれが豊富な実績に戻づく経験と臨床研究を積んでいる呼吸・循環器疾患のスペシャリストである。</p>		
講義計画・内容	<p>第1回 循環器理学療法概論 第2回 循環器理学療法に必要な解剖整理 第3回 循環器理学療法に必要な疾患の知識 第4回 循環器疾患の評価 第5回 心臓外科手術に対する心臓リハビリテーション -概説- 第6回 心臓外科手術に対する心臓リハビリテーション -虚血性心疾患- 第7回 心臓外科手術に対する心臓リハビリテーション -心臓弁膜症- 第8回 心臓外科手術に対する心臓リハビリテーション -大血管疾患- 第9回 呼吸理学療法総論、呼吸器系の生理学 第10回 呼吸不全の病態と呼吸器疾患 第11回 呼吸理学療法における評価① 第12回 呼吸理学療法における評価② 第13回 慢性閉塞性肺疾患(COPD)と拘束性肺疾患の理学療法 第14回 外科手術後の理学療法、酸素療法・人工呼吸療法、吸引の基礎知識 第15回 呼吸器理学療法基本手技</p>		
準備学習	適宜提示する課題を確実に学修して下さい。 提出を求められた場合は確実に提出して下さい。		
教科書・教材等	配布資料 理学療法学ゴールドマスターテキスト6 内部障害系理学療法学(編著 柳澤健,出版社 メジカルビュー社) 学び、身につけ、実践へ!! 心臓血管外科リハビリテーション—ゴールド・スタンダード (Cardiovascular surgery Physiotherapy Network (監修), 高橋哲也 (編集))		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習(ただしコロナ禍によりリモートのオンライン講義の場合は講義のみ)		
成績評価の方法	定期試験(90%) 平常点(10%)		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	これまでに学んできた解剖学、運動学、生理学の内容をしっかりと復習して学修を進めること。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	理学療法科評価技術統合演習	担 当 教 官 名	稲原 健輔、伊藤 美加
対象学生	第3学年 夜間部	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	科学的生命像、薬物の作用、医療用語の適切な使い方、患者との意思疎通の仕方、科学的な考え方		
授業の概要 及び到達目標	<p>講義や演習を通じて、次の項目を理解することを目標とする。</p> <p>①医療現場での用語の適切な使い方、患者との意思の疎通の仕方 (特に、医学の言葉の使い方)</p> <p>②理学療法評価と治療プログラムの立案と実施</p> <p>これらのことから、将来の医療現場での対処法や過ごし方(実践力)を身につけることができよう。</p>		
講義計画・内容	<p>脊髄損傷と運動器疾患の疾患の理解を行い、どのように理学療法を進めていくのかを検討していく。そして、対象者様に来校して頂き、理学療法評価と治療プログラムを立案、実施していく。その中で、対象者様を通して、医療人としてふさわしい、コミュニケーション方法も学んでいく。</p> <p>①②オリエンテーション、症例様紹介(運動器疾患)、評価項目検討 ③④運動器疾患症例様、評価 ⑤⑥症例検討 ⑦治療学(徒手療法) ⑧症例様紹介(脊髄損傷) ⑨⑩評価項目検討 ⑪⑫評価および対応方法準備・検討 ⑬⑭評価実施および症例検討 ⑮まとめ</p>		
準備学習	病状理解のため、整形外科、脊髄損傷について復習してください。また、1～第3学年で行った検査・測定の知識と技術、また理学療法評価について復習してください。		
教科書・教材等	資料を配付する		
授業の形式 教育機器の活用	講義と演習形式		
成績評価の方法	レポート90%、平常点10%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	今までに学習した内容を活用して、実際の患者様を通して実施する授業になります。基本的な知識・技術の確認・活用はもちろんですが、接遇や配慮についても確認・経験・学習する場となります。臨床実習に出る前に、学内でチャレンジできる機会です。患者様への感謝の気持ちや配慮を忘れずに、取り組んでください。		

2023年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	画像評価学	担 当 教 官 名	藤井 俊彰
対 象 学 生	第3学年 夜間部	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	画像(X線・CT・MRI)評価		
授業の概要 及び到達目標	<p>理学療法において必要とされる画像評価の知識についての習得を目指す。 X線・CT・MRIそれぞれの画像診断装置の特徴及び適応を理解する。 正常画像と異常画像の差異を判別し、画像が得られた情報をもとに症状合併症・リスクを予測できることを目標とする</p>		
講義計画・内容	第1回 理学療法評価における画像モダリティの特徴① 第2回 理学療法評価における画像モダリティの特徴② 第3回 運動器の画像評価① 第4回 運動器の画像評価② 第5回 運動器の画像評価③ 第6回 運動器の画像評価④ 第7回 脳の画像評価① 第8回 脳の画像評価② 第9回 脳の画像評価③ 第10回 脳の画像評価④ 第11回 脳の画像評価⑤ 第12回 胸・腹部の画像評価① 第13回 胸・腹部の画像評価② 第14回 胸・腹部の画像評価③ 第15回 胸・腹部の画像評価④		
準備学習	整形外科学・内科学・脳神経外科学		
教科書・教材等	基礎から学ぶ画像の読み方 第3版		
授業の形式 教育機器の活用	臨床画像提示についてはPCモニターでの共有を行う		
成績評価の方法	筆記試験90%、平常点(出席点)10%、合計60%以上で合格		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	CTやMRIの正常画像などの参考となるスマホアプリ等の準備 推奨等については講義内で提示		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	理学療法技術論 (骨関節障害)	担当教官名	堀井 秀樹・伊藤 美加
対象学生	第3学年 夜間部	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	骨関節障害、理学療法治療学		
授業の概要 及び到達目標	<p>【概要】 骨関節疾患に対する理学療法評価・治療について講義・実技を通して学ぶ。 また、実習を通して各骨関節疾患に応じた動作指導や運動療法を提供できるよう学習する。</p> <p>【目標】 1. 骨関節疾患の発生機序とその症状・原因について理解できる 2. 骨関節疾患の根拠に基づいた評価、治療法について理解できる</p> <p>実務者経験: 外来を中心に整形外科的疾患をもつ患者を対象に運動学・臨床運動学にもとづいたリハビリテーションに携わる</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 骨折(1) 3. 骨折(2) 4. 骨折(3) 5. Hip OA(1) 6. Hip OA(2) 7. Hip OA(3) 8. Knee OA(1) 9. Knee OA(2) 10. RA(1) 11. RA(2) 12. 脊椎・脊髄障害(1) 13. 脊椎・脊髄障害(2) 14. スポーツ障害 15. まとめ 		
準備学習	解剖学・運動学・生理学・整形外科学総論の復習をしておいてください。		
教科書・教材等	理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学		
授業の形式 教育機器の活用	講義及び実技		
成績評価の方法	定期試験90%、平常点(出席率、授業態度等)10%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	骨関節障害について解剖学、運動学、生理学、病理学などの知識を基にした理学療法技術への応用を理解して、将来の業務に必要な知識・技術の基本を学んでください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	理学療法評価理論	担当教官名	金谷 由美
対象学生	第3学年 夜間部	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	評価の意義、評価法、アセスメント		
授業の概要 及び到達目標	<p>評価の意義、評価方法、評価した内容から何が問題となるか、理学療法のアセスメントについて学習する。 これまでの評価学で得た知識、技術を総動員し直後の実習において患者様を評価するプロセスを学ぶ。 この授業での到達目標は、各疾患に対する評価方法が理解できる事、評価内容から問題点抽出と目標設定まで理解できる事とする。</p> <p>実務者経験：一般病床、地域包括ケア病床、訪問リハにて約6年理学療法士として勤務。入院患者と訪問リハビリ利用者に対してリハビリ業務に従事。主に、在宅に関わり、一人一人の社会的背景を踏まえつつ、QOLを維持した生活ができるよう、在宅生活の支援を行っていた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> ①オリエンテーション、評価の意義 ②評価方法、社会的背景、情報収集について ③脳血管障害(橋梗塞)の症例検討 グループワークにて評価項目をあげる→実技練習→発表→提出 ④脳血管障害(視床出血)の症例検討 グループワークにて評価項目をあげる→実技練習→発表→提出 ⑤パーキンソン病の症例検討 グループワークにて評価項目をあげる→実技練習→発表→提出 ⑥脊髄小脳変性症の症例検討 グループワークにて評価項目をあげる→実技練習→発表→提出 ⑦筋萎縮性側索硬化症の症例検討 グループワークにて評価項目をあげる→実技練習→発表→提出 ⑧整形外科疾患の症例検討 グループワークにて評価項目をあげる→実技練習→発表→提出 ⑨評価の実技練習(ROM、MMT、神経系等) ⑩評価の実技練習(ROM、MMT、神経系等) ⑪評価に関する国家試験問題 ⑫評価に関する国家試験問題 ⑬実技試験 ⑭実技試験 ⑮まとめ 		
準備学習	1～第3学年で行った検査・測定の知識と技術、また理学療法評価について復習してください。		
教科書・教材等	資料を配布する。		
授業の形式 教育機器の活用	講義と演習形式		
成績評価の方法	実技試験(50%) 定期試験(40%) 平常点(10%)		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	<p>各疾患や各生活背景も踏まえ、理学療法評価について学習します。理学療法プロセスを学ぶ上で、評価は基本であり重要な部分になります。 評価法に関しては国家試験でも高い割合で出題される分野です。随時過去問等も交えて授業を行います。これまでに学んできた評価方法の内容をしっかりと復習して学修を進めてください。</p>		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	理学療法関連技術論Ⅲ	担当教官名	金谷 由美
対象学生	第3学年 夜間部	履修学期	前期・後期集中講義
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	トップダウン ボトムアップ 正常動作 統合と解釈 レポート作成 評価実技		
授業の概要 及び到達目標	<p>提示する模擬症例の紙面情報や動画から、評価実習までに必要な理学療法評価過程(基本知識・文章作成)を学びます。 理学療法評価の過程を理解し、情報収集・動作観察・問題点抽出・治療プログラム立案までの一連の流れを、指導の下レポート作成・プレゼンテーションができることを目標とする。</p> <p>実務者経験：一般病床、地域包括ケア病床、訪問リハにて約6年理学療法士として勤務。入院患者と訪問リハビリ利用者に対してリハビリ業務に従事。主に、在宅に関わり、一人一人の社会的背景を踏まえつつ、QOLを維持した生活ができるよう、在宅生活の支援を行っていた。</p>		
講義計画・内容	第1回:オリエンテーション 臨床実習に向けて 第2回:トップダウンとボトムアップ 第3回:情報収集、問診能力、カルテの見方 第4回:SOAPの記述 第5回:理学療法評価 第6回:正常動作の理解 動作観察(基本動作)の記述 第7回:統合と解釈 第8回:目標設定、治療プログラム作成 第9回:レポート作成① 第10回:レポート作成② 第11回:評価知識復習 小テスト 第12回:評価実技① 第13回:評価実技② 第14回:基本動作介助法 第15回:まとめ		
準備学習	単位取得に必要な時間に自宅学習が含まれていますので、必ず復習を実施してください。		
教科書・教材等	臨床理学療法評価法 改訂版 配布資料 症例動画		
授業の形式 教育機器の活用	講義、その他視聴覚機器の利用		
成績評価の方法	レポート60%、小テスト30%、平常点10%で評価し、総合60%以上を合格とする。		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	評価実習では、情報収集から治療プログラムを立案をして、ゴール設定までの過程を経験することになります。そのため、当授業では理学療法評価のプロセスを理解し、適切な理学療法を提供するための基礎を学びます。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	理学療法教育・職場管理論	担 当 教 官 名	伊藤 美加 他
対 象 学 生	第3学年 夜間部	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	業界に求められる人材 生涯教育 自己 リーダーシップ		
授業の概要 及び到達目標	<p>・理学療法士が活躍する分野で実際に活躍されている先生方から直接話を伺い、その分野で求められる人材について理解する</p> <p>・職業人として組織を理解し、組織の中で働くにあたり、自己を考え、リーダーシップについて理解する。</p> <p>・理学療法士の生涯教育システムについて理解する。</p> <p>実務者経験:病院では、超急性期から回復期、ターミナルケアまで従事。また、介護老人保健施設、訪問看護ステーションでの勤務もあり。退院・退所前での家屋評価、環境整備、訪問での住宅環境調整を含めて患者様、対象者様の在宅生活に携わってきた。</p>		
講義計画・内容	<p>15回の講義を3本の柱で構成する。</p> <p>1、理学療法士が働く各分野で実際には他依頼している方からその分野の動向や求められる人材の説明を受ける</p> <p>2、組織人になることから、自己のとらえ方、リーダーシップについて講義する</p> <p>3、職能団体である理学療法士協会の組織を知り、その中で行われる生涯教育について講義する。</p> <p>①理学療法士における職場とは ②理学療法士における職場とは(演習、発表) ③理学療法士に必要なリスクマネジメント① ④理学療法士に必要なリスクマネジメント②</p> <p>⑤日本理学療法士協会について⑥卒後教育について</p> <p>⑦組織とは⑧多種職連携① ⑨種職連携② ⑩病院での理学療法士の役割</p> <p>⑪介護老人保健施設における理学療法士の役割 について</p> <p>⑫訪問での理学療法士の役割について</p> <p>⑬小児分野での理学療法士の役割について</p> <p>⑭⑮まとめ</p>		
準備学習	興味のある分野について理解を深めるよう自己学習してください。		
教科書・教材等	資料配布		
授業の形式 教育機器の活用	講義 実技 演習 GW		
成績評価の方法	平常点10% レポート、GW、発表90%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	専門職である理学療法士になるうえで、技術だけでなく制度の理解も重要です。また、管理していく能力も必要となります。理学療法士の働く現場を知り、自分の将来像を描いてみてください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	地域保健・福祉・生活環境論	担当教官名	伊藤 美加
対象学生	第3学年 夜間部	履修学期	集中講義
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	地域保健・地域福祉・生活環境・福祉用具		
授業の概要 及び到達目標	<p>保健、福祉とは何かを理解し、理学療法士としての役割を考えていく。 また、地域において生活している高齢者、障害を持たれている方に対して、生活環境をどのように捉え、整備していくのかを考えていく。 理学療法士としての視野を広げ、地域における理学療法士の役割を理解する。</p> <p>実務者経験:病院では、超急性期から回復期、ターミナルケアまで従事。また、介護老人保健施設、訪問看護ステーションでの勤務もあり。退院・退所前での家屋評価、環境整備、訪問での住宅環境調整を含めて患者様、対象者様の在宅生活に携わってきた。</p>		
講義計画・内容	<p>1回目:オリエンテーション。日本の現状。 2回目:地域保健、福祉の概要 3回目:生活環境とは 4回目:住宅改修について 5回目:福祉用具、福祉機器について 6回目:自宅を改修。平面図作成 7回目:事例検討 GW 8回目:発表、まとめ</p>		
準備学習	自分の生活する地域における生活環境や制度について事前に確認してみましょう。		
教科書・教材等	配布プリント 標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第5版		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習・グループワーク		
成績評価の方法	レポート60%、グループ発表・課題30%、平常点10%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	<p>高齢者や障害を持っていらっしゃる方が地域で生活するためには、どのような知識、技術が必要になるのかを考えていきましょう。その中に、制度の活用と生活環境を整えていくことが大切になります。そのため、自分が住む地域をはじめ、世の中にはどのような地域保健福祉制度があるのか理解しましょう。また、私たちの対象者が生活する環境として、住宅だけではなく、生活する地域の環境(物・人)も考えていきましょう。</p>		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野																														
授業科目名	理学療法課程論	担 当 教 官 名	磯部由美																														
対 象 学 生	第4学年 夜間部	履 修 学 期	前期																														
必修・選択の別	必修	授業回数	30回																														
授業のキーワード	臨床実習対策 自分の課題への気づき 記述・記録のスキル 臨床推論のトレーニング																																
授業の概要 及び到達目標	<p>臨床実習の反省をふまえ、現時点での自分達の課題を知り、それぞれの課題の問題解決に能動的に取り組む。また、臨床実習の中で経験する症例に対する臨床推論と記述による表現力を高めていくこと。</p> <p>実務者経験 理学療法士としてリハビリテーションセンター、回復期病棟、一般病院、整形外科クリニック、訪問リハビリ、介護予防教室、海外での国際協力などで仕事をしてきました。</p>																																
講義計画・内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 実習の振り返り</td> <td>16. 統合と解釈</td> </tr> <tr> <td>2. 理学療法評価過程について</td> <td>17. 統合と解釈</td> </tr> <tr> <td>3. 情報収集について</td> <td>18. 統合と解釈</td> </tr> <tr> <td>4. 情報収集について</td> <td>19. プログラム立案と実施</td> </tr> <tr> <td>5. 疾患等についての知識の確認 (グループワーク)</td> <td>20. プログラム立案と実施</td> </tr> <tr> <td>6. 疾患等についての知識の確認 (グループワーク)</td> <td>21. プログラム立案と実施</td> </tr> <tr> <td>7. 動作観察</td> <td>22. プログラム立案と実施</td> </tr> <tr> <td>8. 動作観察</td> <td>23. レポート作成</td> </tr> <tr> <td>9. 動作観察</td> <td>24. レポート作成</td> </tr> <tr> <td>10. 動作観察</td> <td>25. レポート作成</td> </tr> <tr> <td>11. 検査・測定</td> <td>26. レポート作成</td> </tr> <tr> <td>12. 検査・測定</td> <td>27. 理学療法評価過程の振り返り</td> </tr> <tr> <td>13. 検査・測定</td> <td>28. 理学療法評価過程の振り返り</td> </tr> <tr> <td>14. 検査・測定</td> <td>29. 理学療法評価過程のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15. 検査・測定</td> <td>30. 理学療法評価過程のまとめ</td> </tr> </table>			1. 実習の振り返り	16. 統合と解釈	2. 理学療法評価過程について	17. 統合と解釈	3. 情報収集について	18. 統合と解釈	4. 情報収集について	19. プログラム立案と実施	5. 疾患等についての知識の確認 (グループワーク)	20. プログラム立案と実施	6. 疾患等についての知識の確認 (グループワーク)	21. プログラム立案と実施	7. 動作観察	22. プログラム立案と実施	8. 動作観察	23. レポート作成	9. 動作観察	24. レポート作成	10. 動作観察	25. レポート作成	11. 検査・測定	26. レポート作成	12. 検査・測定	27. 理学療法評価過程の振り返り	13. 検査・測定	28. 理学療法評価過程の振り返り	14. 検査・測定	29. 理学療法評価過程のまとめ	15. 検査・測定	30. 理学療法評価過程のまとめ
1. 実習の振り返り	16. 統合と解釈																																
2. 理学療法評価過程について	17. 統合と解釈																																
3. 情報収集について	18. 統合と解釈																																
4. 情報収集について	19. プログラム立案と実施																																
5. 疾患等についての知識の確認 (グループワーク)	20. プログラム立案と実施																																
6. 疾患等についての知識の確認 (グループワーク)	21. プログラム立案と実施																																
7. 動作観察	22. プログラム立案と実施																																
8. 動作観察	23. レポート作成																																
9. 動作観察	24. レポート作成																																
10. 動作観察	25. レポート作成																																
11. 検査・測定	26. レポート作成																																
12. 検査・測定	27. 理学療法評価過程の振り返り																																
13. 検査・測定	28. 理学療法評価過程の振り返り																																
14. 検査・測定	29. 理学療法評価過程のまとめ																																
15. 検査・測定	30. 理学療法評価過程のまとめ																																
準備学習	基本的な知識の確認を今まで用いた教科書を用い、予習・復習を行ってください。																																
教科書・教材等	資料適宜配布																																
授業の形式 教育機器の活用	座学、実技、グループワーク、その他視聴覚機器の利用																																
成績評価の方法	レポート課題とプレゼンテーション(90%)、出席点(10%)																																
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	臨床実習に向けて自らの課題を知り、能動的に課題の問題解決に取り組むことが実のある実習につながると考えて取り組んでください。																																

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	理学療法科研究法	担当教官名	酒井 祐子
対象学生	第4学年 夜間部	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	文献収集 論文抄読 統計		
授業の概要 及び到達目標	<p>【概要及び到達目標】 研究法では、統計資料や研究論文を適切に読み解く能力を身につけられるようにして下さい。 さらに、エビデンス(根拠)に基づく理学療法実践の展開力を身に付けるため、研究の基礎について、倫理的側面を含めて学んで下さい。</p> <p>【実務者経験】科目担当者は、急性期病院、回復期、維持期と全ての領域での診療経験がある教員であり、臨床的視点に基づいた内容について教授する。</p>		
講義計画・内容	<p>1回目 研究とは？なぜ研究が必要なのだろう 2回目 研究デザインの基礎知識 3回目 論文・文献収集について① 4回目 研究計画立案とバイアスの考慮 5回目 倫理申請の要点 6回目 対象を決める・データをとる 7回目 データをとるための実践と統計ソフトの準備 8回目 統計解析の準備と簡単な検定 9回目 統計解析の実際:2変量解析 10回目 統計解析の実際:分散分析 11回目 研究不正行為と引用・転載の注意点 12回目 臨床研究の体験例 13回目 発表・グループワーク 14回目 発表・グループワーク 15回目 国試問題・まとめ</p>		
準備学習	事前に資料を配布しますので目を通したり、気になる論文やキーワードは調べてみて下さい。パワーポイントが使えるようにして下さい。		
教科書・教材等	配布資料・作成資料		
授業の形式 教育機器の活用	主に講義形式、積極的にグループディスカッションを行います。		
成績評価の方法	文献抄読・文献抄録・発表(小テスト含)90%、平常点10%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	自身で興味のある分野について調べてください。 他の学生としっかり学習していきましょう。 データの見方がわかるようにしましょう。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	国家試験対策講座	担当教官名	東 隆史
対象学生	第4学年 夜間部	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	60回
授業のキーワード	専門基礎 専門		
授業の概要 及び到達目標	本科で学習した内容を総復習し、国家試験を合格するよう理解力を得る。 授業目的は「国家試験合格」が唯一である。 国家試験は範囲も広く、深い知識が求められる。		
講義計画・内容	各分野に精通した教員が国家試験の傾向、重点項目の解説、過去問の解説 を行いながら進めていく。 模擬試験、グループワーク、集中講義等適時実施する。		
準備学習	国家試験レベル		
教科書・教材等	国家試験必修ポイント(医歯薬出版)		
授業の形式 教育機器の活用	講義、グループワーク、小テスト		
成績評価の方法	筆記試験を2回実施し、2回とも60%以上の得点率をもって合格とする		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	国家試験合格に向けてこの授業でポイントをおさえて、しっかり学習を深めてく ださい。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	臨床医学セミナー	担 当 教 官 名	東 隆 史
対 象 学 生	第4学年 夜間部	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	基礎医学 疾患の理解		
授業の概要 及び到達目標	2～3年生に実施した、基礎医学の講義をもとに、対象者の病状・障がい像の把握を行えるよう、総合的な理解につなげる。その成果として国家試験合格レベルの知識を身につける		
講義計画・内容	1. 整形外科学 2. 内科学 3. 神経内科学 4. 小児科学 5. 精神医学 を得意としている教員によるオムニバス形式で実施する。		
準備学習	指定なし		
教科書・教材等	指定なし		
授業の形式 教育機器の活用	講義・グループワークを中心に進める		
成績評価の方法	平常点10% ペーパー試験90%で総合判定する。		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	最終学年に行う統合的な科目となっています。臨床の中で対象者の障がい像を理解するためには疾患に対する知識は不可欠です。 一緒に習得していきましょう		